

**平成28年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化 ～**

[基本情報]

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	東京藝術大学				
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	12606			
3. タイプ	A-②	キャンパス・アジア(CA)事業の推進 ＜新たにCAに取り組むもの＞			
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな さわ かずき (氏名) 澤 和樹	(所属・職名) 東京藝術大学・学長			
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな さわ かずき (氏名) 澤 和樹				
6. 事業責任者	ふりがな おかもと みつこ (氏名) 岡本 美津子	(所属・職名) 映像研究科・教授			
7. 事業名	【和文】※40文字程度 国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム				
	【英文】 Japan-China-Korea International Animation Co-work Curriculum				
取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input checked="" type="radio"/> 人社系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他			
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input checked="" type="radio"/> 大学院 <input type="radio"/> 学部及び大学院			
8.	大学院映像研究科				

9. 海外の相手大学			
	国名	大学名	部局名
1	中国	中国伝媒大学	動画・数字(デジタル)芸術学院
2	韓国	韓国芸術総合学校	映像院
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学)					
	大学名	取組学部・研究科等名		大学名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名:東京藝術大学) (タイプA-②)

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

http://www.geidai.ac.jp/information/info_public/education_announce
 (東京藝術大学公式Webサイト HOME > 広報・大学情報 > 情報公開 > 教育情報の公開)

12. 本事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度(平成)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	合計	
事業規模	18,160	37,290	38,000	37,290	35,890	166,630	
内訳	補助金申請額	14,560	29,310	30,020	30,020	27,910	131,820
	大学負担額	3,600	7,980	7,980	7,270	7,980	34,810

13. 本事業事務総括者部課の連絡先 ※選定結果の通知等の事務連絡先となります。

部課名	所在地	
責任者	ふりがな (氏名)	(所属・職名)
担当者	ふりがな (氏名)	(所属・職名)
	電話番号	緊急連絡先
	e-mail(主)	e-mail(副)

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。
 e-mail(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

(大学名:東京藝術大学) (タイプA-②)

事業の目的・概要及び交流プログラムの内容 【1ページ以内】

事業の目的・概要及び相手大学と実施する交流プログラムの内容について、以下の①～④を記入してください。

① 事業の目的・概要等

【事業の目的及び概要】

本事業では、新時代のアニメ・映画監督を育成する為に、国際的にも同分野で評価の高い日本・中国・韓国の国立大学が、国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築する。三大学の高度な連携により可能となるこの事業は、アニメーションの国際教育拠点形成を見据えた、世界をリードする取組である。

東京藝術大学は、我が国唯一の国立総合芸術大学として世界水準の教育研究活動を展開し、平成 17 年に設置した大学院映像研究科においても、優れた国際的実績を有する教員陣により質の高い教育プログラムが提供されている。各国を代表する映像メディア教育機関や産業界とも活発に交流し、世界の第一線で活躍できるグローバル人材の育成を推進しており、在籍学生・卒業生の制作した映像作品が国内外において数々の賞を受けていることや、そうした作品に影響され、国境を越えて諸外国からも多くの学生が本研究科への入学を志望していることは、教育研究組織としての方向性の正しさと確かな成果を示している。

映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校とのアニメーション作品の共同制作を平成 22 年より毎年継続して実施しており、平成 24 年以降は中国伝媒大学を加え、平成 27 年には第 6 回目を開催した。この取組は、日本・中国・韓国の 3 カ国の学生からなる混成チームで、英語によりコミュニケーションをとりながら短編アニメーションを完成させ、一般の観覧客も含むアニメーションフェスティバルで上映まで行うものである。その独自性と質の高さから、世界最大規模のコンピュータグラフィックスおよびインタラクティブ技術を中心としたデジタルメディア/デジタルコンテンツのカンファレンスである「シーグラフアジア」等でも発表され、国際的にも大きな注目を浴びてきた。

本事業では、これまでの取組をさらに発展させ、例年 7～8 月頃に実施している 10 日間の「共同制作」に加え、「共同企画」の演習を新たに開始する。「共同企画」では、日中韓の学生が一堂に会して混成チームをつくり、短編アニメーション作品の企画とそのプレゼンテーションを行う。また、企画に必要な映像メディア分野に関する講義等も共同授業として実施される。「共同企画」終了後、参加学生は一度自大学に戻るが、チームごとの「Web 会議」として skype による Web ミーティングを定期的に行い、企画したアニメーション作品の最終脚本および絵コンテを完成させる。その後、「共同制作」として三カ国の学生が再び一堂に会して、「共同企画」「Web 会議」を経たアニメーション企画を実際に制作し、さらに成果発表として開催する国際アニメーションフェスティバルにおいて、一般の観覧客も含めて上映会を行う。この、「共同企画」「Web 会議」「共同制作」「アニメーションフェスティバル（上映会）」により構成される「国際共同演習」を、3 カ月にわたる日中韓 3 大学の共同カリキュラムとして実施する。

3 カ国の学生が混成チームをつくりアニメーションの共同企画・制作・上映までを行うプログラムは、世界的に見ても例のない、極めて先進的かつ実践的なものである。特に、日本・中国・韓国という、国際的にも映像メディアおよびアニメーションの分野で評価の高い国々において、各国を代表する国立大学の学生がこのような国際共同演習を行うことは、高い教育効果と社会的なインパクトを有する。今後ますます増加する、3 カ国の産業界における映像メディアコンテンツの国際共同制作に向け、将来のリーダー達が共同で演習を行うこのプログラムは、必ず大きな成果を生み出すものと確信する。

また、本事業では「国際共同演習」のほか、各大学においてアニメーション分野または映像メディア分野に関する短期集中講座を開講し、各国の優れた技術・技法・表現・理論等を短期間で重点的に学修・修得することを希望する学生について、相互の派遣・受入を行う。

これらの取組を通じて、アニメーション教育における国際的な拠点を形成し、将来的には、国内外から広く人材が集まる、世界で唯一かつ最高峰の「国際アニメーションコース」を創設する。

【養成する人材像】

- ・アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材
- ・国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を国際協働の場で活かせる人材
- ・映像分野におけるグローバル化を先導する人材

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無は問わない）

平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度		平成 32 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
0 人	0 人	10 人	15 人	10 人	5 人	10 人	15 人	10 人	15 人

② 事業の概念図 【1ページ以内】

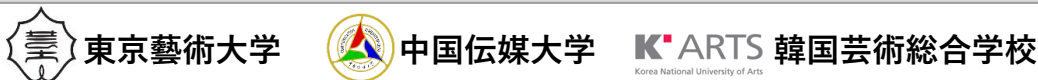
※国内複数大学による申請の場合は、それぞれの大学の連携内容や役割分担が分かる図を③に作成してください。

国際アニメーションコース創設に向けた 日中韓Co-workカリキュラム

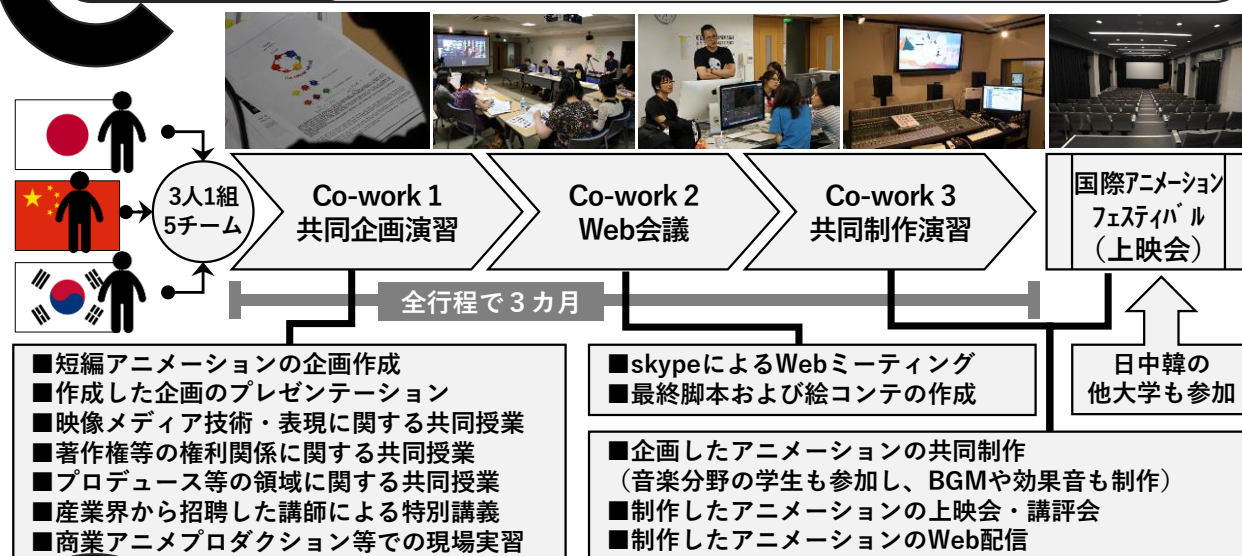
未来のアニメ
監督を日中韓
で育てよう！

- 新時代のアニメ・映画監督を育成する為には、国際教育が不可欠
- 映像分野において特に重視されるべき国際教育は、国際共同制作の実践
- 日中韓の綿密かつ高度な連携により世界をリードするプログラムを構築

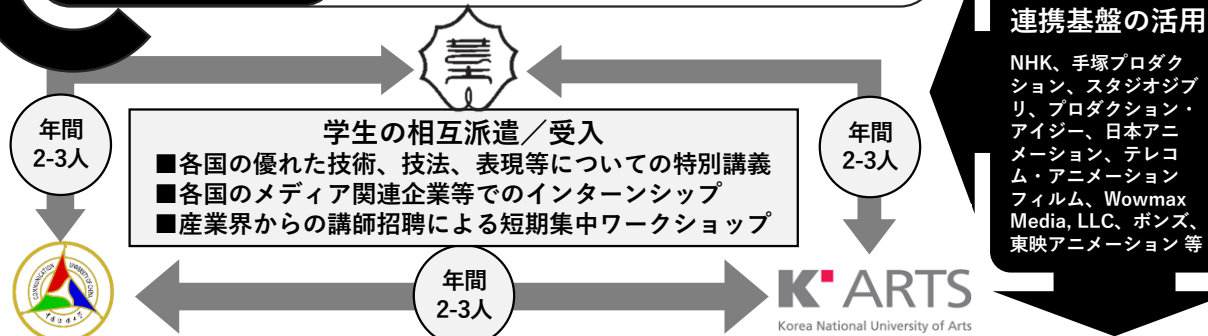
アニメーションの
国際共同制作を基盤
としたカリキュラム



国際共同演習 日中韓の学生によるアニメーション作品の国際共同制作



短期集中講座 各国の技法・表現等を重点的に修得



養成する人材像

- アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材の養成
- 国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を国際協働の場で活かせる人材の養成
- 映像分野におけるグローバル化を先導する人材の養成

将来目標

- 日本・中国・韓国の共同によりアニメーション教育研究における国際拠点を形成
- 世界各国から優れた人材が集まる「国際アニメーションコース」を創設
- 国際社会において“日本のアニメーション”の不動の地位を確立

③ 国内大学の連携図 【1ページ以内】

※国内の大学が複数連携して実施する取組の場合は、それぞれの大学の役割分担が分かる図を作成してください。

本申請は本学単独によるものだが、国際共同演習の成果発表を兼ねて開催する「アニメーションフェスティバル（上映会）」については、以下に例示する通り、国内外の他大学とも合同で実施している。

■平成 27 年度に開催した「日中韓アニメーションフェスティバル 2015」

- ・開催日：平成 27 年 12 月 26 日（土）、12 月 27 日（日）
- ・会場：金沢 21 世紀美術館
- ・参加大学：韓国……韓国芸術総合学校、中央大学
中国……中国伝媒大学、北京電影学院
日本……金沢美術工芸大学、東京藝術大学

こうした取組により、本学のみならず、映像メディア教育を行う国内外の様々な大学・機関が本交流プログラムに参画することができ、学生の交流や成果の共有が促進される。

■ICAF(インターカレッジアニメーションフェスティバル)

参考：<http://www.icafe.info/>

また、本学は、多摩美術大学をはじめ、日本国内でアニメーション教育を行っている 28 大学の連合体である ICAF(インターカレッジアニメーションフェスティバル) にも幹事校として参画し、ネットワークを形成している。これにより、上記の日中韓アニメーションフェスティバルに多くの学生が参加することや、国際共同制作の実施校拡大など、ICAF ネットワークの活用により大きなムーブメントを目指す。

加えて、本学が主導する下記「国公立 5 芸術大学連携ネットワーク」および「芸術系大学コンソーシアム」とも連動させることで、本申請に係る交流プログラムの取組・成果が広く共有されるよう図っていく。

■国公立 5 芸術大学連携ネットワーク

公立芸術大学の金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、沖縄県立芸術大学と共に本学が形成するネットワーク。毎年度、「国公立 5 芸術大学間留学生短期交換事業」や、各大学の教職員・学生の参加による芸術とスポーツの祭典「五芸術大学体育・文化交歓会」（略称：「五芸祭」、平成 28 年度は金沢で実施）、学長級による定期的な懇談会・連絡協議会を開催している。

■芸術系大学コンソーシアム

芸術系大学コンソーシアムは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国家プロジェクトとして推進する「文化プログラム」をより効果的に全国規模で展開することや、芸術系大学全体のプレゼンス向上、教職員・学生の交流促進等を目的として、本学の主導により形成が進められている。

平成 27 年度には準備会を開催し、平成 28 年 4 月にはロンドン芸術大学の学長らの招聘により、2012 年のロンドンオリンピックにあわせたイギリス国内における芸術系大学の取組やその後の展開等に係る講演会・意見交換会を開催するなど、積極的な活動を展開している。

平成 28 年 7 月には準備会から正式なコンソーシアム創設へと移行する予定であるが、現時点（平成 28 年 4 月末）で既に約 40 の国内芸術系大学および芸術系学部を有する大学の参画が決定しており、他分野でも類を見ない大規模・広範な大学間ネットワークとなる。

上述の取組は、本学が「スーパーグローバル大学創成支援事業（構想名：藝大力創造イニシアティブ）」において掲げている、国内外の産学官連携による「アートコンソーシアム形成」戦略推進の一環として位置付けられるものであり、国内芸術系大学同士の連携によるグローバル人材育成機能の強化は、我が国が「文化芸術立国」として国際プレゼンスを確立していく上でも極めて重要であるため、本申請に係る海外芸術系大学等との交流プログラムと国内ネットワークを連動させることによる事業拡大は、本学としても中長期戦略の一環として重要視しており、本申請に係るプログラムの構築に含める形で他大学の参画に係る制度・体制整備を進める計画としている。

④ 交流プログラムの内容 【2ページ以内】

- 我が国の大学間交流促進の牽引役となるような先導的な事業計画であり、大学の中長期的なビジョンのもとに戦略的な交流プログラムを実施するものとなっているか。
- 単位の相互認定や成績管理等の質の保証を伴った日本人学生の海外留学及び外国人学生の受入の双方向の交流を促進できるような交流プログラムとなっているか。
- 将来グローバルに活躍できる人材像とそれに基づく交流プログラムの設定や提供（外国人学生に対する企業等における体験活動の実施を含む）を行うものとなっているか。
- キャンパス・アジア（CA）の基本的な枠組みを踏まえた事業となっているか。
- タイプA-①においては、キャンパス・アジアパイロットプログラムへの参加実績をベースとして、さらに高度化した取組、あるいは先進的な教育プログラムに取り組むものとなっているか。

【実績・準備状況】

映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校とのアニメーション作品の共同制作を平成 22 年より毎年継続して実施しており、平成 24 年以降は中国伝媒大学を加え、平成 27 年には第 6 回目を開催した。この取組は、日本・中国・韓国の 3 カ国の学生からなる混成チームで、英語によりコミュニケーションをとりながら短編アニメーションを完成させ、一般の観覧客も含めたアニメーションフェスティバル（上映会）まで開催するものであり、その独自性と質の高さから、世界最大規模のデジタルメディア／デジタルコンテンツのカンファレンスである「シーグラフアジア」等でも発表され、国際的にも大きな注目を浴びてきた。本学映像研究科ではこの共同制作を正規科目として扱い、毎年度開講している。

また、本学の教員は平成 24 年より、ディレクター／プロデューサーとして産学共同ワークショップ「アニメーションブートキャンプ」の実施に参画している。この事業は、大学や専門学校等でアニメーションを学ぶ学生たちに、日本のトップレベルのアニメーター達が合宿形式で指導を行うものである。このほか、平成 27 年 2 月に開催した「産学官アニメーション国際シンポジウム 2015 ドラえもんは、「スーパーグローバル」になれるのか？～22 世紀を見すえたアニメーション人材育成～」や、タイ、シンガポール等 ASEAN 諸国への映画・アニメーション教育に係る教員・産業界の人材派遣事業等も含め、アニメーション分野の特性を踏まえ、産学連携による人材育成プログラムの構築を積極的に展開してきた実績を有している。

【計画内容】

本事業では、これまでの取組をさらに発展させ、例年 7～8 月頃に実施している 10 日間の「共同制作」に加え、「共同企画」の演習を新たに開始する。「共同企画」では、短編アニメーション作品の企画とそのプレゼンテーションのほか、企画に必要な知識等の学修・修得として、映像メディア分野における各国大学の教員による講義等を実施する。「共同制作」では、「共同企画」において企画したアニメーションの制作、さらには成果発表を兼ねて「国際アニメーションフェスティバル（上映会）」が行われる。「共同企画」および「共同制作」、そしてそれらを繋ぐ「Web 会議（skype による Web ミーティング）」から成る「国際共同演習」を、3 カ月にわたる日中韓 3 大学の共同カリキュラムとして実施する。

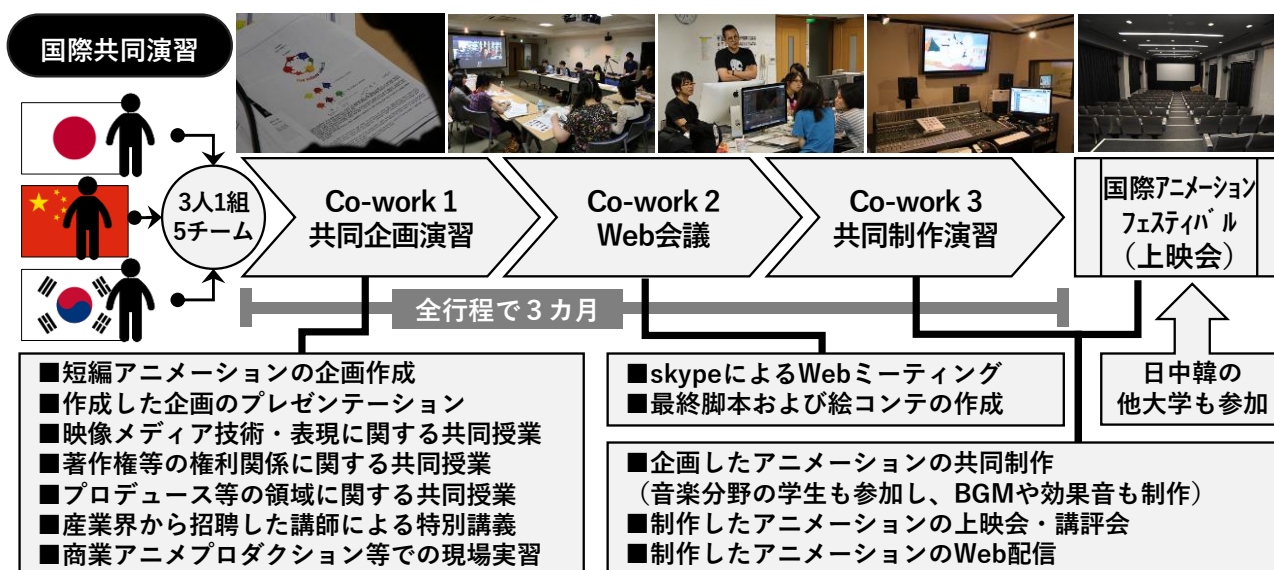


図 1 国際共同演習

共同企画演習

■ **短編アニメーションの企画作成**

三カ国の学生が一堂に会し、日中韓の各大学から1名ずつの学生により3人1組の混成チームをつくる (計5チーム)。各チームは、当該年度のテーマに基づいて、短編アニメーションの企画を作成する。

■ **作成した企画のプレゼンテーション**

作成した短編アニメーションの企画について、チームごとに英語によるプレゼンテーションを行う。企画に対する評価やアドバイスは、日中韓三大学の教員および産業界から招聘した専門家等により行われる。

■ **映像メディア技術・表現、著作権等の権利関係、プロデュース等の領域に関する共同授業**

共同企画演習に集まった三カ国の学生に対して、映像メディア分野に関する各国の優れた技術・技法・表現・理論、映像メディアコンテンツやアニメーションの企画・制作にとって重要な周辺分野である著作権等の権利関係・プロデュース等の領域について、各国の教員による講義を共同授業として行う。

■ **産業界から招聘した講師による特別講義**

メディア関連企業や商業アニメプロダクションから外部講師を招聘し、共同企画演習に集まった三カ国の学生に対して、プロの視点や産業界の事例等を踏まえた企画・制作に関する特別講義を行う。

Web 会議

共同企画演習において組んだチームごとに、Skype 等を用いて定期的なミーティングを行い、共同制作演習に向けて、企画した短編アニメーションの最終脚本および絵コンテを完成させる。

共同制作演習

三カ国の学生が再度一堂に会して、共同企画演習と Web 会議を経て完成された最終脚本および絵コンテをもとに、アニメーション作品の制作を行う。制作された作品には、本学・音楽学部音楽環境創造科の学生とのコラボレーションにより、BGM と効果音も加えられる。

国際アニメーションフェスティバル (上映会)

共同制作演習を経て完成した作品について、日中韓による国際アニメーションフェスティバルを開催して上映する。同フェスティバルには、日中韓の他大学も参画し、各大学の学生が制作した作品の上映や、各大学の教員および産業界から招いたゲストによるシンポジウム等も実施する。

作品の公開

国際共同演習により制作された各チームのアニメーション作品については、映像研究科アニメーション専攻が運営している YouTube のチャンネル「GEIDAI ANIMATION」において配信するほか、中国・韓国のアニメーション関連イベント等においても適宜上映する。

国際共同演習のほか、各国の優れた技法・表現等を重点的に修得する短期集中講座を日中韓の各大学において開講し、特定の技術や各国の先端の技法等の効率的な学修を望む学生を相互に派遣／受入する。

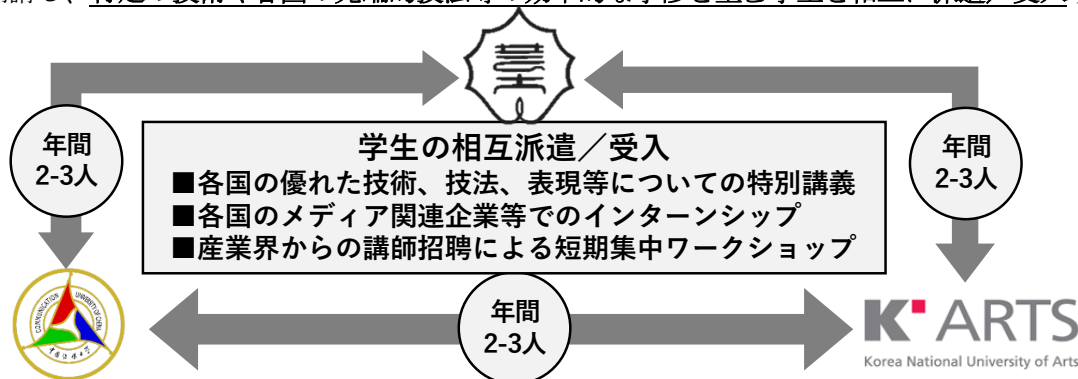


図2 短期集中講座

各講座は原則として英語により運営され、各大学は年間で5名程度の学生を派遣し、同数程度の学生を受け入れる。各講座は、取り扱うテーマや内容に応じて概ね3日～1カ月の期間で実施される。

講座の具体的な内容としては、①3DCG時代のキャラクターデザイン (中国)、②ITメディアへ向けたコンテンツ開発 (韓国)、③アニメ産業分野の作画技術・映像メディアコンテンツに係る著作権 (日本)等が想定されており、各国のメディア関連企業や商業アニメプロダクションでの現場実習／インターンシップ、産業界からの講師招聘による短期集中ワークショップ等についても、順次開講していく予定である。

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【①、②合わせて2ページ以内】

交流プログラムの質の保証のための取組内容について、実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 交流プログラムの質の保証について

- 透明性、客観性の高い厳格な成績管理（コースワークを重視したカリキュラムの構成、GPAの導入や教員間の相互チェックなど）、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。
- 交流プログラムを実施するに当たり、単位の相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。
- 国際公募による外国人教員の招聘や海外大学での教育経験又は国内大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、海外連携大学との教員交流、FD等による教員の資質向上など、質の高い教育が提供されるよう交流プログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。
- 大学院レベルの交流においては、ダブル・ディグリーもしくはジョイント・ディグリーの実施を目指すものとなっているか。

【実績・準備状況】

透明性・客観性の高い成績管理等

本学・映像研究科アニメーション専攻においては、集団的な場での制作およびアニメーションについての思考と知識を取り入れた必修科目を設けるとともに、制作過程および評価に外部の評価軸を導入している。また、作家/監督などの協力による学内外・国内外での実践的な学習機会をつくり、映像表現としてのアニメーションについて、より高度で総合的な教育研究が可能になるカリキュラムを実践している。

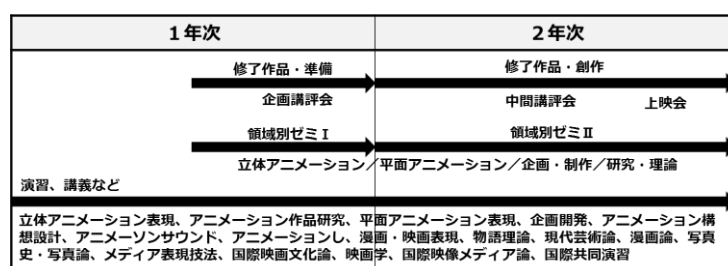


図3：アニメーション専攻のカリキュラム概要

特に学習成果に係る評価方法については、「企画講評会」「中間講評会」「上映会」等を「公開型」で実施しており、審査を行う教員に対する他の教員や学生からの相互チェックに加え、観客・聴衆等学外者による第三者評価も受けながら厳格な成績評価・管理を行っている。また、芸術分野の特性として「実習・実技」を重視した科目構成（概ねの科目が1単位45時間の実学修時間を確保）となっていることから、単位の実質化は徹底されており、上記の成績評価・審査方法等と併せ、出口管理の厳格化にも結びついている。

単位の相互認定や成績管理、学位授与プロセスの明確化

本学は、国際交流協定に基づく連携だけでも23カ国・地域63大学・機関と国内芸術系大学では圧倒的多数を誇るが、我が国唯一の国立総合芸術大学の責務として学位の質保証や単位の実質化を重要視し、協定締結に至るまでに交流実績を重ね、相手大学のカリキュラムや学位審査基準等を仔細に確認した上で単位の相互認定や学位授与・卒業修了要件等を十分協議し、円滑な学生交流や国際教育連携を確保しており、本学の単位制度および学位授与プロセス等についても、明文化されたものを交流先の大学等に対して提供している。

また、相互に単位が付与される「共同講義」や「共同演習」についても多数の実績を有しており、事前に連携大学間で相互の単位規定や成績評価に係る基準等を確認した上で、適切な運用を行っている。

質の高い国際交流プログラムを実施するための教育体制

本学・映像研究科アニメーション専攻の教員は、アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート、アソロ映画祭（イタリア）ビデオアート部門グランプリ、文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞、HARBOR TALE、ZLIN FILM FESTIVAL アニメーション部門最優秀賞/観客賞等、国内外で数多くの実績を上げており、特定の教員による指導を志望して同研究科の入学試験を受ける外国人学生も数多い。また、世界最先端の映像教育を行っている南カリフォルニア大学やフランスのGobelins l'Ecole de l'Imageから教員ユニットを招聘することで「映像学」「国際映像メディア論」等の講座を開講し、大学院映像研究科の共通科目として、ドキュメンタリーからミュージックビデオ、バーチャルリアリティなど先端分野の特別講義やワークショップを開催している。

【計画内容】

本事業においては、交流プログラムの核となる「国際共同演習」および「短期集中講座」の計画・実施・管理等を総合的に担う役割として、英語による指導が可能なアニメーション分野の専任教員を新たに1名雇用し、将来的な国際アニメーションコースの創設も含め、包括的なマネジメントを行う。

「共同企画演習」および「共同制作演習」の実施にあたっては、事前に三大学の教員が協議を行い、「日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン」に基づき、演習のテーマ、教育プログラムの

内容、成績評価方法、単位の扱い等について共同で計画し、プログラムの質向上を図る。また、実際の授業運営に際しても各大学の教員が一堂に会し、自大学の学生以外の指導等も行うことから、**透明性・客観性が確保される。**成績管理や単位の実質化についても相互チェックがなされ、**教員間の交流によりアニメーションの教育研究に係るノウハウが共有され、FDとしても機能する。**

「短期集中講座」についても、**上記ガイドラインに基づき、各大学が開設する講座は事前に連携大学間の合同会議で内容・学修時間数・成績評価方法等について相互にチェックし、透明性・客観性の高い科目運営を行う。**講座への参加学生には、受講内容・時間等に応じた**学修証明書が受入機関より発行される。**

さらに、本事業による取組を基盤として、将来的に、**ジョイント・ディグリーによる「国際アニメーションコース」の創設**を目指す。これは、本事業で推進する国際共同演習による実践的学修および各国の優れた技法・理論等の重点的修得を基盤としたカリキュラムであり、**日本・中国・韓国という映像メディアおよびアニメーションの分野で評価の高い国々によって、共同学位が授与される質保証の伴った国際コースが設置**されることで、世界中から数多くの学生・研究者が集まることが期待できる。また、同コースでは産業界のニーズも十分に取り入れ、今後世界的に重要となる映像コンテンツの国際共同制作を牽引する人材の養成を目的とし、**映像メディア教育およびアニメーション教育における国際共同カリキュラムのリーディングモデルとなるべく、領域の特性を踏まえた「映像分野のキャンパス・アジア」構築を実現する。**

② 相手大学（相手国）のニーズを踏まえた大学間交流の展開

- 相手大学における単位制度（授業時間を含めた学習量や単位の換算方法等）、学生の履修順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について留意し、交流プログラムの内容に応じたサポートの実施等により、学生の履修に支障がないよう配慮されているか。
- 短期の交流から学位取得を見据えた長期の交流までの様々な形態の交流を含む多層的な構成で、大学間交流の発展に繋がるような柔軟で発展的な交流プログラムの構成となっているか。
- 各国の人材育成ニーズに合わせた教育の提供に留意したものとなっているか。

【実績・準備状況】

相手大学における単位制度、アカデミックカレンダーの相違、学生に対する履修上の配慮・支援等

本学と、本申請に係る連携大学である**韓国芸術総合学校**とは、平成 17 年に大学間の**国際交流協定を締結**であり、**中国伝媒大学とも現在協定の締結に向けた最終的な協議**を行っており、単位制度やアカデミックカレンダーの相違については十分な考慮がなされている。また、**既に三大学で毎年度「共同制作演習」を実施**しており、「共同企画演習」を新たに加えることについても具体的な検討が進んでいるため、交流プログラムの実施に係る教務制度上の支障はない。

また、スーパーグローバル大学創成支援事業において新設した「**グローバルサポートセンター**」の**専門スタッフ等を中心に一元的・組織的な大学間交流を日常的に進めている**ことから、海外大学・機関や外国人留学生等からの多様な要請に適時適切に対応できる体制・システムが構築されており、本申請に係る連携大学の学生についても、**個別に履修上の配慮・支援をすることが可能**である。

【計画内容】

上述の体制に加え、**新たに学生サポートを担当するスタッフを雇用し**、国際共同演習や短期集中講座に係る学生派遣／受入を、グローバルサポートセンターとの協働により一体的に支援する。また、国際共同演習におけるskype等の活用によるWebミーティングの実施など、**相互の学生が自大学にいながらも国際共同による作業・学修が進められるプログラム構成とすることで**、交流プログラム参加学生の自大学における履修に対する支障を最小限に抑えつつ、**産業界において今後ますます増加する国際共同制作に向けた実践的経験が可能**となる。

柔軟で発展的な交流プログラムの構成

本申請に係る具体的な交流プログラムは、以下により構成される

- ①**国際共同演習（共同企画演習＋Web会議＋共同制作演習＋国際アニメーションフェスティバルでの上映）**
- ②**短期集中講座（各大学において開講される。各講座、3日間～1ヶ月程度）**

国際共同演習においては、三大学の教員・学生が一定期間一堂に会するため、そこでの**共同授業や教員間の協議等により、プログラムの発展的な拡大**が常に図られる。また、短期集中講座として、**連携大学での演習や産業界でのインターンシップ等を含む柔軟かつ多様なバリエーションの教育プログラムを用意する。**

各国の人材育成ニーズに合わせた教育の提供

日本・中国・韓国という、**国際的にも映像メディアおよびアニメーションの分野で評価の高い国々において**、各国を代表する国立大学が国際共同カリキュラムの構築を行うことは、**各国の産業界からのニーズにも合致**したものである。また、短期集中講座により各国の優れた技法・表現等を重点的に学修できるようにすることは、**相互のカリキュラムをピンポイントで補い、各大学におけるグローバル人材育成機能を高める**ことに繋がる。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

交流プログラムの実施に伴う受け入れる外国人学生及び派遣する日本人学生に対する生活や学修及び就職への支援やそのための環境整備について、①～③の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 外国人学生の受入のための環境整備

- 外国人学生の在籍管理のための適切な体制が整備されているか。
- 受け入れた外国人学生が学業に専念できるよう、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舎、学内各種資料の翻訳、就職支援等のサポート体制の充実が図られているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、外国人学生の国内就職説明会参加、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

外国人学生の在籍管理のための体制整備、各種サポート体制、履修体系等に係る情報提供等

本学では、グローバル戦略の一環として平成26年11月に大学事務局に「国際企画課」を新設し、スタッフを増員して外国人学生の在籍管理・学修支援・生活支援・各種手続き支援等を集約的に対応しており、同年12月に創設した「グローバルサポートセンター」の専門スタッフ・サポートスタッフ・日本語教員との連携や、従来制度を抜本的に改編し研究室・専門領域単位で全学的に配置した「留学生支援チューター(先輩学生による指導・助言)」のネットワーク化、総合キャリアポートフォリオシステムによる一元的情報管理等、外国人留学生の支援に係る多重体制を構築している。また、本学・映像研究科は、例年新入生の2割程度が東アジアを中心とした外国人留学生であり、教職員による受入・指導体制や先輩留学生によるサポート体制は十分に整備されている。

加えて、手続き、通知、注意喚起等に係る学内資料はすべて英語化を完了しており、追加分についても即座に学内で英訳・校正作業を行う業務フローが整備済である。履修体系等に係る情報も含めた英語版Webサイトの整備、シラバス全情報の多言語化(中国語・韓国語を含む)、語学力に優れた教務事務スタッフの配置による履修指導の円滑化等、受け入れた外国人留学生に困難・不安を感じさせない環境構築がなされている。

産業界との連携

本学・映像研究科においては、映画やアニメーション等の専攻分野の特性上、設置当初より産業界と密接な連携関係を有しており、在籍している教員には、現役の映画監督やアニメーション作家等も多い。それによる個人的なネットワーク等を活かし、アニメーション作家の招聘による「コンテンポラリー・アニメーション入門」をこれまで20回以上、公開講座として開講している。また、本学の教員は平成24年より、ディレクター/プロデューサーとして産学共同ワークショップ「アニメーションブートキャンプ」の実施に参画している。この事業は、大学や専門学校等でアニメーションを学ぶ学生たちに、日本のトップレベルのアニメーター達が指導を行うものである。そのほか、平成27年2月に開催した「産学官アニメーション国際シンポジウム2015 ドラえもんは、「スーパーグローバル」になれるのか?～22世紀を見すえたアニメーション人材育成～」等も含め、産学連携による人材育成プログラムの構築を積極的に展開してきた実績を有している。

連携実績のあるメディア関連企業、商業アニメプロダクション

NHK、手塚プロダクション、スタジオジブリ、プロダクション・アイジー、日本アニメーション、テレコム・アニメーションフィルム、Wowmax Media, LLC、ボンズ、東映アニメーション等

【計画内容】

本事業では、外国人学生に係る支援については、スーパーグローバル大学創成支援事業等により構築済の体制・システムを活かした対応を基本としつつ、更なる強化として、専任教員1名とサポートスタッフ1名を新たに配置し、受入前後の先方機関や学生本人との連絡調整を含めた一元的な対応と既存の包括的支援体制との円滑な連携統合を図る。また、受入先の研究室・専門領域には適宜チューターを増員するほか、住居を含む生活面での支援についても本事業の交流プログラムに合わせた準備を整える。加えて、受入学生に対して個人制作のスペースおよび適切な機材を無償で貸与する。

産業界等との連携に関しては、既存の産学連携関係を活用しつつ、「国際共同演習」や「短期集中講座」において、積極的に産業界の人材を招聘し、特別講義の開講・学生へのアドバイス等を行う。また、メディア関連企業や商業アニメプロダクション等におけるインターンシップの機会も用意する。加えて、就職支援等のキャリアサポートとも連動させ、本プログラムに参加する外国人留学生の将来設計を支援する。

② 日本人学生の派遣のための環境整備

- 留学中の日本人学生が学業に専念できるとともに、帰国後の学業生活や就職活動等にも支障のないよう、留学中の日本人学生への必要な情報の提供やインターネット等を通じた相談体制の構築等がなされているか。

- 日本人学生に対して、海外への派遣前から帰国後にわたり、履修面・学習面・生活面にわたるサポート（履修指導、交流に関する情報の提供、相談サービスの実施、就職支援等）が推進されているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手續、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 留学中の日本人学生の安全管理に関する体制が十分に取られているか。
- 国内外でのインターンシップ等による企業体験の機会確保や、産業界からの講師等の派遣など、産業界との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

留学中の日本人学生に対する相談体制、履修面・学修面・生活面等のサポート体制・情報提供等

前述の「国際企画課」および「グローバルサポートセンター」において、海外留学を希望する日本人学生を対象に、海外留学に際して必要となる基本情報（単位認定等教学面に係る留学前・留学中・留学後の諸手続や留意点、ビザ等入出国関係、保険・健康管理、留学先の生活関連情報等）について幅広い情報提供を行うとともに、個別相談にも随時応じ、留学中の学生に対してE-mail・skype等による支援をしている。また、特に昨今の国際情勢への対応として安全・危機管理に係るマニュアルに加え、派遣先国の連携大学・在外公館等も含め、緊急時を想定した連絡ルート確保に係る仕組みを整備した。加えて、経済的サポートとして、本学「藝大基金」を活用した海外派遣・海外留学に係る給付型奨学金により、意欲のある学生の海外活動を促進している。

産業界との連携

本学・映像研究科では、前述のとおり産業界と密接な関係を有しており、講師等の招聘や産学連携イベントの開催等、教育プログラムや社会への発信において連携基盤を活かした展開をしている。修了生の就職先としても、以下に挙げる通り、映像メディアやアニメーションに関する企業が数多く名を連ねている。

アニメーション専攻修了生の主な就職先

任天堂、NHK、NHKアート、カプコン、東映アニメーション、シャフト、PAワークス、ウィットスタジオ、小学館、FANワークス、ポリゴンポクチュアズ、三次元、イアリンジャパン、FOGHORN、イレブングラフィックス、CALF、ピコナ（起業）等

※アニメーション作家／監督として独立する者、教育研究機関に就職する者も多い。

【計画内容】

本事業では、構築済の体制・システムを活かして対応することを基本としつつ、さらに支援を強化するため、専任教員1名とサポートスタッフ1名を新たに配置する。（外国人留学生の支援強化として新たに配置する教員・スタッフと同一であり、受入・派遣を総合的に担当することで効率的に業務を行う）。国際共同演習については各国の教員によるサポートが得られ、連携大学での短期集中講座については、先方機関によりチューター役となる学生が配置される。また、派遣学生に対しては、受入機関より個人制作のスペースおよび適切な機材が無償で貸与される。

産業界との連携についてもより一層強化し、国際共同演習では、アニメーションの企画・制作・上映という全行程において、産業界の人材による指導・アドバイス・評価等が得られるようにする。短期集中講座では、各国のメディア関連企業や商業アニメプロダクションにおける現場実習／インターンシップを開設し、派遣学生が海外において実践的な経験を積める教育プログラムを構築する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

- 外国人学生及び日本人学生へのサポートが円滑及び適切になされるよう、関係大学間の十分な連絡・情報共有体制が整備されているか。
- 大学間交流の発展に向け、参加学生の同窓会の立ち上げ等、卒業・修了後の継続的サポート体制の構築等が図られているか。
- 緊急時、災害時の対応のための留学中の日本人学生や受け入れた外国人学生をサポートするリスク管理への配慮が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

前述のとおり、本学と、本申請に係る連携大学である韓国芸術総合学校とは、平成17年に大学間の国際交流協定を締結済みであり、中国伝媒大学とも現在協定の締結に向けた最終的な協議を進めている段階にある。また、既に毎年度、国際共同制作を実施している為、大学間における十分な連絡・情報共有体制が整備されている。加えて、大学間交流の発展に向け、国際企画課およびグローバルサポートセンターを中心に、OB・OGネットワークの整備を進めていることも含め、持続的な交流関係の構築が図られている。

【計画内容】

本事業においては、従前の連携体制に加え、新たに配置する専任教員1名とサポートスタッフ1名が、連携大学との連絡調整・情報共有、国際共同演習および短期集中講座に係る包括的なマネジメントや派遣学生／受入学生のサポートを行う。それにより、国際共同カリキュラムの運営を安定的に実施することが可能となる。また、OB・OGネットワークを拡大・活用し、卒業・修了後のサポート体制を整備する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～④合わせて2ページ以内】

事業の実施に伴う大学の国際化と情報公開、成果の普及について、①～④の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 事業の実施に伴う大学の国際化

- 質の保証を伴った大学間交流の充実・発展のため、実施大学だけでなく他大学の学生も参加できる取組が設けられるなど柔軟で発展的なものとなっているか。
- 大学の国際化に向けた戦略的な目標等において、事業の意義及び方向性を明確に位置づけるとともに、相手大学も含めた組織的・継続的な教育連携を実施する体制が構築されているか。

【実績・準備状況】**実施大学のみならず留まらない大学間交流の充実・発展に資する取組**

国際共同制作の成果発表を兼ねて開催した平成27年度の「日中韓アニメーションフェスティバル2015」では、本学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校だけでなく、中央大学（韓国）、北京電影学院（中国）、金沢美術工芸大学（日本）も参加し、各大学の作品についても上映を行った。これにより、映像メディア教育を行う国内外の様々な大学・機関と学生の交流や成果の共有を促進している。

また、本学は、多摩美術大学をはじめ、日本国内でアニメーション教育を行っている28大学の連合体であるICAF（インターカレッジアニメーションフェスティバル）にも幹事校として参画しているほか、「国公立5芸術大学連携ネットワーク」を形成し、毎年度、留学生短期交換事業や、学長級による定期的な懇談会・連絡協議会開催、各大学が実施するイベントおよび教育プログラムへの相互参加、それらを通じた教育研究に係る知見・ノウハウ・情報の共有・教職員の交流によるFD・SD等が行われている。

加えて、2020年の東京五輪を射程として本学の主導により「芸術系大学コンソーシアム」の構築が進められている。平成28年7月には準備会から正式なコンソーシアム創設へと移行する予定であるが、現時点（平成28年4月末）で既に約40の国内芸術系大学および芸術系学部を有する大学の参画が決定しており、他分野でも類を見ない大規模・広範な大学間ネットワークとなる。

こうした国内ネットワークと、本事業における交流プログラムとを連動させることで、アニメーションフェスティバルへの参加校の増加や、それによる成果の発信・共有が可能となる。

大学の国際化戦略における本事業の位置付け、本事業の相手大学も含めた組織的・継続的な連携体制

本学は、平成26年10月に本学の中長期的なビジョンとして「学長宣言2014」及び「大学改革・機能強化推進戦略」を公表しており、具体的なアクションプランとして、以下を掲げている。

- ◆アジアの芸術系大学のフラグシップとして国際水準の人材育成プログラムや教育研究を実践
- ◆我が国の芸術文化を一層振興し国際発信していくとともに、国際舞台で躍動する傑出した人材を育成
- ◆国際的な芸術実践活動を展開し、活動成果を広く社会に還元
- ◆海外一流芸術系大学との連携基盤をさらに発展させ、交換留学の拡充や国際共同カリキュラムの構築を実施

本事業は、この中長期ビジョンに基づくものであり、「第3期中期目標・計画」においても、本事業に係る交流プログラムの意義・方向性等の位置付けは明確である。また本学は、創立以来、東アジアにおける国際交流活動を殊に重視しており、その具体的取組として、近年の代表例だけでも以下が挙げられる。

■アジア8カ国1地域23の芸術大学が参加した「藝大アーツ・サミット2012」の開催

- ・ マニフェストとして、交流と連携の強化を宣言し、全参加大学により調印

■日中韓の5大学の学生が参加した「藝大アーツ学生サミット2014」の開催

- ・ 学生共同制作による屏風作品の展示と映像作品の上映を実施

■芸術教育の現場に焦点を当てたアジア7カ国11機関の教育者による「国際芸術教育会議2015」の開催

- ・ 参加各校の教員と本学の教職員および学生が芸術教育の現場において専門分野別の交流活動を実施
- ・ 上記を踏まえ「芸術教育の現場にとって、グローバル化とはどういうことか？」をテーマに全体討議

【計画内容】

本事業においては、上述の「ICAF」「国公立5芸術大学連携ネットワーク」および「芸術系大学コンソーシアム」のフレームを活用し、国際アニメーションフェスティバル等の機会において、学生の交流や成果の共有が広範になされるよう計画している。また、平成22年以降毎年継続している本学・中国伝媒大学・韓国芸術総合学校による国際共同制作を共通カリキュラムである「国際共同演習」としてさらに発展させることで、組織的・継続的な教育連携体制をさらに盤石なものとし、将来的に、世界で唯一かつ最高峰の、ジョイント・ディグリーによる「国際アニメーションコース」の創設を目指す。

② 事務体制の強化

- 本事業の取組に対応するため、事務局機能を強化するなど事業をサポートする全学的体制の充実（交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないよう、窓口となる担当部署を設定し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、事業運営上の関係者間の調整など）が図られているか。
- 招聘した外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置できるよう、事務職員の能力向上を推進しているか。

【実績・準備状況】

スーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受けて新設したグローサポートセンターには、専任のコーディネーター1名、各分野の国際連携を担当する専門スタッフ5名、支援スタッフ2名、国際業務・留学生指導を担当するグローバルサポートスタッフ3名を配置し、内 10名が外国籍教員・海外大学での学位取得者・海外在住歴10年以上の者で構成され、ドイツ語・フランス語等、各国語での実務も可能であり、国際企画課と連携し海外大学・機関との交流や学生の派遣／受入に係るワンストップサービス等、万全の体制で手厚い支援を行っている。また、外国語能力基準を「英検準一級」「TOEIC700」「TOEFLiBT64」として設定し、事務職員に対して長期的な語学研修プログラムおよび海外大学等との交渉の場に参画する国際実務研修を実施している。加えて、日常的に外国籍教員や外国人留学生のサポートを行う各研究室・専攻に配置された助手・助教に対しても、同様の語学学習プログラムを行っている。

【計画内容】

本事業においては、既存の体制を活用しつつ、学生の派遣／受入および「国際共同演習」や「短期集中講座」の運営を担当するサポートスタッフ1名を新たに配置し体制の強化を図る。また、受け入れた外国人留学生に対しては、所属研究室においてチューターを増員し、学修面・生活面でのサポートを拡充する。

③ 事業の実施、達成・進捗状況の評価体制

- 事業の実施、達成状況を評価し、改善を図るための評価体制が整備されているか。

【実績・準備状況】

本学では、スーパーグローバル大学創成支援事業を中心とした国際化戦略に係る取組の全体・個別観点の達成度・進捗状況を管理するための体制として学長直下に「グローバル戦略推進委員会」を設置し、グローバル展開戦略全般の企画立案・計画策定および「自己評価書」の作成等による自己点検を行っており、加えて、外部有識者により構成される「グローバル戦略評価・検証委員会」において第三者評価を実施し、毎年度「外部評価書」をとりまとめ、本学の国際化に向けた取組に係るPDCAサイクルを循環させている。

【計画内容】

本事業においては、既存の評価検証体制を基盤としつつ、連携三大学による合同会議や産業界から招聘した講師等によるレビューにより、教育プログラムの検証・評価を随時行う。また、本学が取組を進める「産学官グローバル人材育成連絡会議」においても、本事業に係る交流プログラムの評価・検証を行う。

④ 国内外への情報提供の方法・体制

- 質を保証する観点や学生の適切な判断・選択に資する観点から、取組の実施状況等や交流プログラムの詳細など必要な情報について、外国語による提供も含め、積極的に情報の発信を行うものとなっているか。
- 中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」（平成22年6月）が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行うものとなっているか。
- 取組を通じて得られた成果について、ホームページ等による公表の他、報告会、発表会等の報告の場を設けて、各大学や学生、産業界等への普及を図るものとなっているか。

【実績・準備状況】

本学では、平成22年の学校教育法施行規則改正を踏まえた情報公表は当然として、創立以来、芸術大学の特性に基づき、外部に対する成果の積極的発表・発信を前提とした教育研究が行われてきた実績があり、教育研究成果やその過程・地域連携事業・国際貢献事業等について積極的に情報を公開してきた。近年は、英語を主とした多言語による広報活動を「ブランディング戦略」として推進しており、グローバルサポートセンターを中心として外国語による安定的な情報発信に係る業務フローの構築が完了している。

【計画内容】

本事業においては、既存の広報・情報発信体制を活用しつつ、交流プログラムの一環として開催する「国際アニメーションフェスティバル」や、中国・韓国国内におけるアニメーション関連イベント等において適宜作品の上映を行う。また、映像研究科アニメーション専攻が運営しているYouTubeのチャンネル「GEIDAI ANIMATION」においても配信する。加えて、国際芸術系大学サミット・国際シンポジウム・コンソーシアム会合等の機会を通じても本事業の取組を積極的に発信し、事業内容・成果の普及を図る。

達成目標 【①、②、③で2ページ以内、④、⑤はそれぞれ1ページ以内、⑥は交流プログラムの内容に応じたページ数】
 本事業を実施することによって達成しようとする目標について、下記の点に留意し、①～⑥に具体的に記入してください。

国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。
 アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標が設定されているか。

① 養成しようとするグローバル人材像について
 本事業において養成しようとするグローバル人材像が明確に設定されているか。

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～平成32年度まで)

本事業においては、以下に挙げる人材の養成を目指す。

- ◆アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材
- ◆国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を国際協働の場で活かせる人材
- ◆映像分野におけるグローバル化を先導する人材

この為、本事業における交流プログラムを通じて、参加学生は以下の知識・技能を修得する。

- ①アニメーションの企画・制作・上映・配信に係る実践的なプロセス
- ②アニメーションの国際共同制作／国際共同研究の現状と将来展望
- ③アニメーションの国際共同制作に必要なハードウェア／ソフトウェアの操作・活用
- ④各国におけるアニメーション産業の実態と世界全体における位置付け
- ⑤アニメーションおよび映像メディアコンテンツの制作に係る周辺領域 (著作権、プロデュース等)
- ⑥アニメーション分野における各国の優れた技法、技術、表現、理論
- ⑦国際協働の場で多様な人材と適切なコミュニケーションをとる為の語学力

交流プログラム参加に係る事前学習、国際共同演習 (共同企画、Web 会議、共同制作、アニメーションフェスティバルにおける上映) および短期集中講座の結果 (アウトプット) として上記の能力を向上させ、また、それによる成果 (アウトカム) として、アニメーション産業への人材輩出、アニメーション分野における国際的な作家／研究者の輩出、日本のアニメーションに係る国際プレゼンスの向上を実現する。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～平成29年度まで)

平成28年度は、例年通り7～8月にかけて国際共同制作を行うため、本申請に係る「国際共同演習」については実施しない。平成29年度からは、交流プログラムに参画する学生については上述の全能力を修得することを目標に定めるが、事業の中盤・後半期 (平成30～32年度) には、国際共同演習および短期集中講座のプログラムを充実させることで、より高い水準・深い理解に基づく能力修得を目標とする。

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする学生数の推移について

本事業計画において海外に留学する日本人学生数のうち、留学後に一定の外国語力基準をクリアする学生数に関する適切な目標が設定されているか。

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

外国語力基準		達成目標	
		中間評価まで (事業開始～平成29年度まで)	事業計画全体 (事業開始～平成32年度まで)
【参考】本事業計画において海外に留学する日本人学生数		10人 (延べ数)	40人 (延べ数)
1	英語：英検準1級、TOEFLiBT50、TOEIC600相当 (CEFRにおける「B1」を参考水準とする)	10人 (延べ数)	40人 (延べ数)

(ii) 外国語力基準を定めた考え方
 (※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)

英語の「B1」は、「身近な話題について主要点を理解できる」「個人的関心事項について脈絡のある文を作ることができる」「経験、出来事を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる」「講義や会議、テレビ番組のおおまかな趣旨を理解できる」と概ね規定され、これは国際共同演習における他国の学生とのコミュニケーションや、海外大学における短期集中講座の受講に必要な水準である。

<p>(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>(※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)</p> <p>事業計画の全体において、<u>英語の上記水準は、交流プログラムへの参加にあたって身に付けておくべき能力要件として定める。</u>本学の外国語教育専門機関である言語・音声トレーニングセンターによる授業科目・特別講義、スーパーグローバル大学創成支援事業において導入したeラーニング英語学習システム、グローバルサポートセンターによる特別講座等により英語教育プログラムを提供する。また、<u>分野の特性を踏まえ、英語によるプレゼンテーションやピッチ（売り込み）をテーマとした特別講義を開講する。</u></p>
<p>(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>(※ (i) において、複数の外国語力基準を設けている場合は、それぞれについて明示すること)</p> <p>平成28年度は、英語教育について充実を図り、交流プログラムにおいて必要となる運用能力修得や到達度のチェックに係る体制整備・制度構築を行う。平成29年度からは、国際共同演習および短期集中講座に参加する学生について、上記の外国語力基準を満たす能力を事前に修得させる。</p>
<p>②-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について</p> <p>○ 本事業に参加する学生に修得させる具体的能力が設定されているか。</p>
<p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>本事業における交流プログラムを通じて、参加学生は以下の通り語学以外の知識・技能を修得する。</p> <p>①アニメーションの企画・制作・上映・配信に係る実践的なプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習および国際共同演習の全体工程を通じて修得する。 <p>②アニメーションの国際共同制作／国際共同研究の現状と将来展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習および国際共同演習の全体工程を通じて修得する。 <p>③アニメーションの国際共同制作に必要なハードウェア／ソフトウェアの操作・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習および国際共同演習の全体工程を通じて修得する。 <p>④各国におけるアニメーション産業の実態と世界全体における位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同企画演習における各大学教員および招聘講師による講義等により修得する。 ・短期集中講座において、各国における講義またはインターンシップにより修得する。 <p>⑤アニメーションおよび映像メディアコンテンツの制作に係る周辺領域（著作権、プロデュース等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同企画演習における各大学教員および招聘講師による講義等により修得する。 ・短期集中講座において、各国における講義またはインターンシップにより修得する。 <p>⑥アニメーション分野における各国の優れた技法、技術、表現、理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際共同演習の全体工程を通じて修得する。 ・短期集中講座において、各国における講義またはインターンシップにより修得する。 <p><u>※それぞれの知識・技能に係る修得状況は、レポート、制作、プレゼンテーション、国際共同演習におけるチーム作業の様子、上映会での成果発表等により、各国教員が共同で確認する。</u></p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>平成29年度から、参加学生には上述の全能力を修得することを目標に定めるが、<u>参加学生のフィードバック、自己評価や外部評価を通じて、事前学習を含めた交流プログラム全体の質を毎年度向上させる。</u></p>
<p>③ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について</p> <p>○ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。</p>
<p>(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）</p> <p>本事業では、「<u>日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン</u>」に基づき、<u>三大学の合同会議により教育プログラムを相互チェックする。</u>また、<u>産業界からも随時レビューを受け、加えて、本学の「グローバル戦略推進委員会」による自己評価、「グローバル戦略評価・検証委員会」および「産学官グローバル人材育成連絡委員会」による外部評価により、事業の内容および質を定期的に検証する。</u>以上を通じ、<u>ジョイント・ディグリーによる「国際アニメーションコース」の創設を目指す。</u></p>
<p>(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）</p> <p>平成28年度は三大学の教員による合同会議や外部レビューを複数回実施し、平成29年度より開始する「<u>国際共同演習</u>」および「<u>短期集中講座</u>」の各コースについて、<u>プログラムの内容を綿密に設計する。</u></p>

④ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移

○ 本事業計画において日本人学生の派遣数に関する適切な目標が設定されているか。

現状（平成27年5月1日現在）※1

0人

(i) 日本人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	40人（延べ数）
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	10人（延べ数）

[上記の内訳]

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
合計人数	0人	10人	10人	10人	10人	40人

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

		東京藝術大学		中国伝媒大学		韓国芸術総合学校		備考
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
平成28年度	共同企画演習	0	0	0	0	0	0	-
	共同制作演習	0	0	0	0	0	0	-
	短期集中講座	0	0	0	0	0	0	-
	小計	0	0	0	0	0	0	-
平成29年度	共同企画演習	0	10	5	0	5	0	日本で実施
	共同制作演習	5	0		0	10	韓国で実施	
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	5	10	15	-
平成30年度	共同企画演習	5	0	5	0	0	10	韓国で実施
	共同制作演習		0	0	10	5	0	中国で実施
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	5	10	15	10	15	-
平成31年度	共同企画演習	5	0	0	10	5	0	中国で実施
	共同制作演習	0	10	5	0		0	日本で実施
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	15	10	5	-
平成32年度	共同企画演習	0	10	5	0	5	0	日本で実施
	共同制作演習	5	0		0	10	韓国で実施	
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	5	10	15	-
合計		40	50	40	40	40	50	-

以下の考え方およびプロセスに基づき、目標を設定した。

- 平成28年度は、次年度以降の交流プログラムの設計やそれに向けた体制整備・環境構築を行う。
- 平成29年度以降、各年度、**国際共同演習に各大学5名、短期集中講座に各大学5名が参加**する。
- 国際共同演習を構成する「共同企画演習」と「共同制作演習」は、**同一年度に別々の大学で実施**する。
※例：平成29年度の国際共同演習……共同企画演習（日本）→Web会議→共同制作演習（韓国）
- 短期集中講座は、**各大学で派遣／受入学生数がイコールフィッティング**となるようにする。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

（大学名：東京藝術大学）（タイプ：A-②）

⑤ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移

○ 本事業計画において外国人学生の受入数に関する適切な目標が設定されているか。

現状（平成27年5月1日現在）※1

21人

(i) 外国人学生数の達成目標

事業計画全体の達成目標（事業開始～平成32年度まで）	50人（延べ数）
中間評価までの達成目標（事業開始～平成29年度まで）	15人（延べ数）

[上記の内訳]

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
合計人数	0人	15人	5人	15人	15人	50人

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

		東京藝術大学		中国伝媒大学		韓国芸術総合学校		備考
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
平成28年度	共同企画演習	0	0	0	0	0	0	-
	共同制作演習	0	0	0	0	0	0	-
	短期集中講座	0	0	0	0	0	0	-
	小計	0	0	0	0	0	0	-
平成29年度	共同企画演習	0	10	5	0	5	0	日本で実施
	共同制作演習	5	0		0	10	韓国で実施	
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	5	10	15	-
平成30年度	共同企画演習	5	0	5	0	0	10	韓国で実施
	共同制作演習		0	0	10	5	0	中国で実施
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	5	10	15	10	15	-
平成31年度	共同企画演習	5	0	0	10	5	0	中国で実施
	共同制作演習	0	10	5	0		0	10
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	15	10	5	-
平成32年度	共同企画演習	0	10	5	0	5	0	日本で実施
	共同制作演習	5	0		0	0	10	韓国で実施
	短期集中講座	5	5	5	5	5	5	-
	小計	10	15	10	5	10	15	-
合計		40	50	40	40	40	50	-

以下の考え方およびプロセスに基づき、目標を設定した。

- 平成28年度は、次年度以降の交流プログラムの設計やそれに向けた体制整備・環境構築を行う。
- 平成29年度以降、各年度、国際共同演習に各大学5名、短期集中講座に各大学5名が参加する。
- 国際共同演習を構成する「共同企画演習」と「共同制作演習」は、同一年度に別々の大学で実施する。
※例：平成29年度の国際共同演習……共同企画演習（日本）→Web会議→共同制作演習（韓国）
- 短期集中講座は、各大学で派遣／受入学生数がイコールフィッティングとなるようにする。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における平成27年5月1日現在の人数を記入すること。

（大学名：東京藝術大学）（タイプ：A-②）

⑥ 交流する学生数について

○ 外国人及び日本人学生数の推移については、外国人学生の受入のみに偏らず、相当数の日本人学生の海外派遣を伴う、双方向の交流活動が発展するような達成目標となっているか。

1. 交流する相手大学名

(中国側大学) 中国伝媒大学	(韓国側大学) 韓国芸術総合学校
----------------	------------------

2. 交流する学生数について<概要>

(単位:人)

①:本事業計画における交流学生数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計人数	0	0	10	15	10	5	10	15	10	15	40	50

①-1:【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国別 内訳】

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	10	15	10	5	10	15	10	15	40	50
交流相手国:中国	0	0	3	8	2	2	8	8	2	7	15	25
交流相手国:韓国	0	0	7	7	3	3	2	7	8	8	20	25
交流相手国:中国及び韓国	0	/	0	/	5	/	0	/	0	/	5	/
自己負担又は大学負担等による交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

①-2:【交流形態別 内訳】

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位取得を伴う 交流期間3ヶ月未満の交流学生数	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5	20	20
単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	5	10	5	0	5	10	5	10	20	30
上記以外の 交流期間3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②: 宿舎の提供について

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供予定の学生数	0	0	10	15	10	5	10	15	10	15	40	50

(大学名:東京藝術大学)(タイプ:A-②)

3. 交流する学生数について<派遣・受入別 交流プログラムの詳細>

①: 日本人学生の派遣 (日本⇒中国、韓国)

年度	交流期間	派遣元大学名 (日)	派遣先大学名 (中、韓)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	～					
H29	H29.5 ～ H29.8	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	国際共同演習 (制作)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H29.4 ～ H30.3	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H29.4 ～ H30.3	東京藝術大学	中国伝媒大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
H30	H30.5 ～ H30.8	東京藝術大学	韓国藝術総合学校 中国伝媒大学	国際共同演習 (企画) 国際共同演習 (制作)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H30.4 ～ H31.3	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
	H30.4 ～ H31.3	東京藝術大学	中国伝媒大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
H31	H31.5 ～ H31.8	東京藝術大学	中国伝媒大学	国際共同演習 (企画)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H31.4 ～ H32.3	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H31.4 ～ H32.3	東京藝術大学	中国伝媒大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
H32	H32.5 ～ H32.8	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	国際共同演習 (制作)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H32.4 ～ H33.3	東京藝術大学	韓国藝術総合学校	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
	H32.4 ～ H33.3	東京藝術大学	中国伝媒大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2

※1: 短期集中講座では、年度内の特定期間に3カ月未満(3日～1カ月)の交流プログラムが複数回実施される。

②: 外国人学生の受入 (中国、韓国⇒日本)

年度	交流期間	派遣元大学名 (中、韓)	受入先大学名 (日)	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生数
H28	～					
H29	H29.5 ～ H29.8	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	国際共同演習 (企画)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H29.5 ～ H29.8	中国伝媒大学	東京藝術大学	国際共同演習 (企画)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H29.4 ～ H30.3	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H29.4 ～ H30.3	中国伝媒大学	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
H30	H30.4 ～ H31.3	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
	H30.4 ～ H31.3	中国伝媒大学	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
H31	H31.5 ～ H31.8	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	国際共同演習 (制作)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H31.5 ～ H31.8	中国伝媒大学	東京藝術大学	国際共同演習 (制作)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H31.4 ～ H32.3	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2
	H31.4 ～ H32.3	中国伝媒大学	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
H32	H32.5 ～ H32.8	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	国際共同演習 (企画)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H32.5 ～ H32.8	中国伝媒大学	東京藝術大学	国際共同演習 (企画)	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	5
	H32.4 ～ H33.3	韓国芸術総合学校	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	3
	H32.4 ～ H33.3	中国伝媒大学	東京藝術大学	短期集中講座※1	単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流	2

※1: 短期集中講座では、年度内の特定期間に3カ月未満(3日～1カ月)の交流プログラムが複数回実施される。

(大学名: 東京藝術大学) (タイプ: A-②)

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき、①は2ページ以内、②は1事業ごとに1ページ以内】

大学名 東京藝術大学

① 取組の実績

- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築などに取り組んできた実績を有しているか。
- 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組みの形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。
- 国際化に対応するため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。特に、そのために国際公募、年俸制、テニュアトラック制等を実施・導入しているか。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。

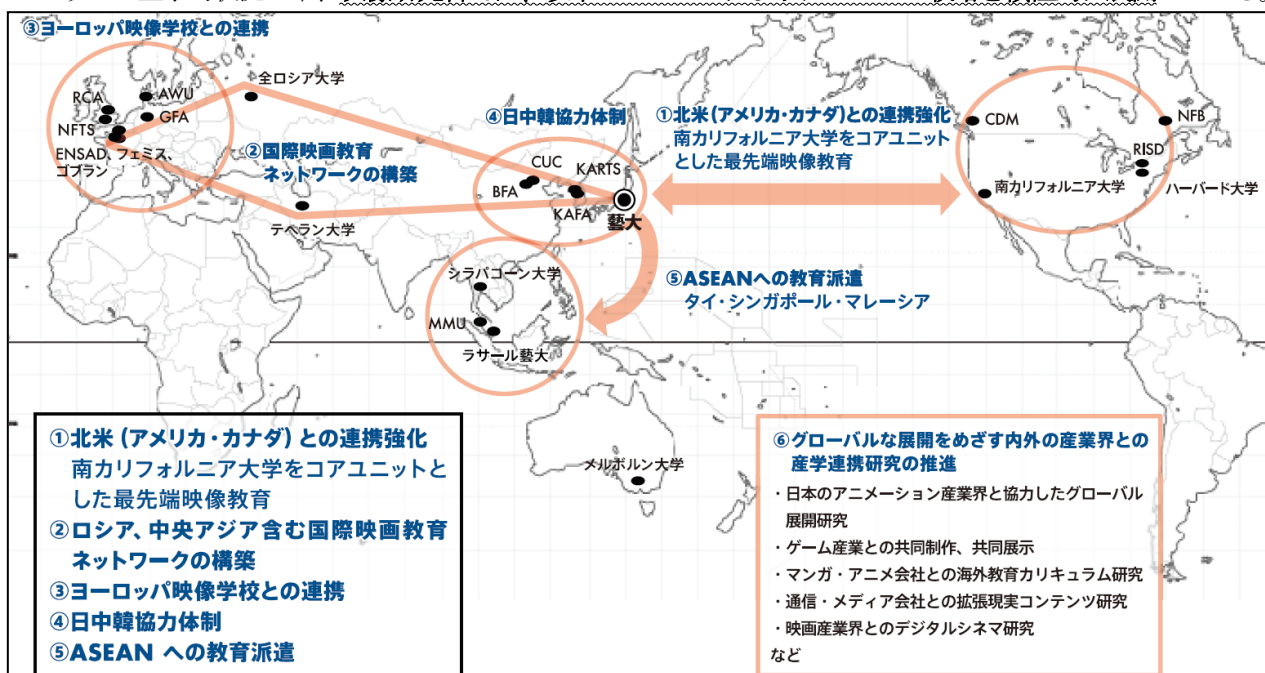
※大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、事業との関連性を踏まえつつ上記の点にも言及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の裏付けとなる資料を様式11④に貼付してください。

国際的な教育環境の交流・国際的なネットワークへの参加・実質的な交流の継続等

本学は、23カ国・地域の63大学・機関と国際交流協定に基づく連携関係を有するほか、世界的なオーケストラ・美術館・博物館、国際的に活躍するデザイナー・演奏家・建築家・映画監督・アニメーション作家など、大学だけに限定されない、芸術団体・各種機関・個人レベルでの緊密なネットワークを広範に有している。

これらの基盤を活用し、平成27年2月に美術分野でパリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学との4大学による「グローバルアート国際共同カリキュラム（ジョイント・ディグリー）構築に向けた連携協定」を締結し、平成27年度は本学と各連携大学の教員・学生がユニットチームをつくり、双方で単位化した共同授業として東京とパリ/ロンドン/シカゴを行き来しながら共同調査・制作を行い、新潟県の越後妻有トリエンナーレや香川県の栗林公園等の芸術祭において成果発表を行った。また、平成27年度からトルコ・イスラエル等の中東地域との交流も促進し、欧米・中東・アジアを繋ぐ芸術文化交流ネットワークを形成している。音楽分野においても、平成27年4月に英国王立音楽院と教員・学生の交流等についての協定を新たに締結し、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団・パリ国立高等音楽院・リスト音楽院等も含め、世界最高峰の音楽機関の演奏家を教員として招聘し、学生への個人指導に加え、演奏会での共演機会も設けている。加えて、国際化に対応した教育研究組織として、平成28年4月に国際芸術創造研究科および美術研究科グローバルアートプラクティス専攻を設置し、これらの新領域では外国人留学生用の入試枠があり、英語による授業や海外大学との共同演習を基本としたカリキュラムが構成されている。また、本学が有する卓越した技芸・環境を活用した文化外交についても積極的に推進し、イタリア首相等、各国要人による特別講演会などを開催している。

こうした全学的状況の中、映像研究科では、以下のビジョンによりグローバル戦略を積極的に展開している。



図：東京藝術大学映像研究科のグローバル展開戦略

①北米との連携強化：南カリフォルニア大学（USC）をコアユニットとした最先端映像教育

世界最高峰の映像教育を行っている USC の教育・研究体制を取り入れ、国際的なカリキュラムを構築している。平成 27 年度は、USC の映画芸術学部から教員を招聘し、「映画学」と「国際映像メディア論」の講座を開講した。「映画学」では、映画理論に関する古典から最先端までを講義として扱い、「国際映像メディア論」では、アニメーション分野を中心に、ドキュメンタリーからミュージックビデオ、バーチャルリアリティなど、最先端分野を網羅するワークショップを開催した。また、アニメーション修了作品講評会には、ハーバード大学の教員を招聘した。加えて、産学連携の研究が活発なカナダのセンター・フォー・デジタルメディアからも教員を招聘し、ゲーム、CG、アニメーション分野における博士課程の研究テーマについて、発表に基づく討論を行った。

②ロシア、中央アジアを含む国際映画教育ネットワークの構築

映画分野で世界的にも評価の高いテヘラン大学（イラン）や、世界最古の映画教育機関である全ロシア映画大学、マルチメディア大学（マレーシア）、メルボルン大学ヴィクトリア校（オーストラリア）等、世界各国の映画教育機関との協議を進め、国際的な映画教育ネットワークの構築を進めている。平成 27 年度は積極的な海外調査のほか、テヘラン大学から教員を招聘し、映画脚本に関する特別講義を開催した。

③ヨーロッパ映像学校との連携

フランス国立映画学校（FEMIS）、フランス国立高等装飾芸術学校（ESNAD）、Gobelins l'École de l'Image（ゴブラン）等を中心に、連携体制の強化を進めている。映画専攻では、FEMIS および韓国国立映画アカデミーと映画の共同制作を例年実施している。また、平成 27 年度は、FEMIS において、フランスの映画製作・配給会社の実務者を講師として日仏共同ワークショップを開催した。加えて、ESNAD からの講師招聘による「アニメーション哲学」の特別講義、ゴブランからの講師招聘による、日本の商業アニメ関係者を交えた、キャラクターアニメーションに関する欧州スタイルのワークショップを開催した。

④日中韓協力体制

アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校とのアニメーション作品の共同制作を平成 22 年より毎年継続して実施しており、平成 24 年以降は中国伝媒大学を加え、平成 27 年には第 6 回目を開催した。この他、映画分野では中国の北京電影学院や、韓国の壇国大学映画コンテンツ大学院と交流を進めている。

※本事業に係る取組は、日中韓協力体制強化によるアニメーション共同制作の発展として位置付けられる。

⑤ASEAN への教育派遣

ASEAN 諸国に映画専攻・アニメーション専攻の教員や、産業界の専門家等を派遣し、人材育成に協力するとともに、国際的な文化交流・文化外交を図っている。平成 27 年度は、マルチメディア大学（マレーシア）において映画撮影照明ワークショップ、シラパコーン大学（タイ）においてアニメーションワークショップ、ラサール芸術大学（シンガポール）においてアニメーション・映画マスタークラスを開催した。

国際化に対応した教育組織体制

本学では国際的な展覧会やコンクールでの受賞等の実績を有する傑出した教員陣により、世界で活躍できる芸術系人材の養成を目標に据えた教育プログラムが整備されているが、前述の通り、世界的な芸術系大学・機関より、卓越教員制度、年俸制、クロス・アポイントメント等を活用した教員招聘を進めており、平成 27 年度だけでも約 100 名の世界一線級アーティストを招致し、世界最高水準の教育体制へと発展している。また、平成 27 年度にはテニュアトラック制度の導入を完了し、将来的に本学の教育研究を担う助手・助教を対象とした英語研修プログラムを開始するなど、中長期的な戦略・計画に基づき、教育組織体制の国際化が進められている。

国際化に対応した事務体制

平成 26 年度に新設した国際企画課は海外実務経験者や TOEIC900 相当以上の語学力を有する事務職員を中心に構成され、同年度創設のグローバルサポートセンターは専任のコーディネーターや各分野の国際連携を担当する専門スタッフ等 11 名の外国籍教員・海外大学での学位取得者等で組織されている。全学的な事務職員の高度化も推進しており、外国語能力基準を「英検準一級」「TOEIC700」「TOEFLiBT64」と設定し、係員・主任級の全事務職員に対して長期的な語学研修および海外大学等との協議・交渉の場に参画する国際実務研修を実施している。

厳格な成績管理・単位の実質化等

本学においては予てより、実践力の強化を主眼としてコースワークを基本としたカリキュラムを構成しており、科目ナンバリングも導入が完了しているほか、講評会や演奏会、学位審査等を原則として「公開型」で実施しており、審査を行う教員に対する他の教員や学生からの相互チェックに加え、観客・聴衆等学外者による第三者評価も受けながら厳格な成績評価・管理を行っている。また、GPA 制度やキャップ制度も導入済みであり、芸術分野の特性として「実習・実技」を重視した科目構成（1 単位 45 時間の実学修時間を確保）となっていることから、単位の実質化は徹底され、上記の成績評価・審査方法等と併せ、出口管理の厳格化にも結びついている。

大学名	東京藝術大学
② 取組の評価	
<input type="radio"/> 文部科学省の大学教育再生戦略推進費による経費支援を受けて実施し、終了した事業がある場合、事業目的が実現された旨の評価を得ているか。 ※事後評価結果を貼付してください。	
該当なし	

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、

①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。

(本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。)

なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。

②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。

また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。

相手大学名
(国名)

中国伝媒大学 (中国)

① 交流実績 (交流の背景)

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

中国伝媒大学は平成 24 年に、本学及び韓国芸術総合学校が行っていた「共同制作」に初参加し、それ以降は本学のシンポジウムや講評会に参加するなど、積極的な交流を行っている。平成 27 年には、本学の岡本美津子教授が中国伝媒大学で講演し、客員教授の称号を授与されている。

時期	本学の交流者	内容
2012 年 12 月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：ソウル、参加教員：チェン・シー講師)
2013 年 12 月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：ソウル、参加教員：チェン・シー講師)
2014 年 8 月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：横浜、参加教員：ガオ・ウェイファ教授、リ・ジョン講師)
2015 年 1 月	教員	中国伝媒大学にて本学・岡本教授が講演。客員教授就任。
2015 年 2 月	教員・学生	「東京藝術大学産学官アニメーション国際シンポジウム 2015」にゲストとしてガオ・ウェイファ教授を招聘
2015 年 7 月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：横浜、参加教員：ジャ・シュウチン学部長、リュウ・ダーイウ教授)
2015 年 12 月	教員・学生	日中韓学生アニメーションフェスティバル 2015 (場所：金沢 21 世紀美術館、参加教員：ガオ・ウェイファ教授)
2016 年 3 月	教員・学生	「アニメーション修了作品国際合同講評会」に講師として教員を招聘 (場所：横浜、参加教員：ガオ・ウェイファ教授)

これまでの交流実績に基づき、現在、国際交流協定の締結に向けた最終的な協議を進めている。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化など) が十分なされているか。

中国伝媒大学は、平成 24 年から本学と韓国芸術総合学校とのアニメーション共同制作に参加したが、以降も継続して参加し、平成 27 年には第 6 回目を開催するなど、交流実績を重ねている。中国伝媒大学では、この 3 カ国の共同制作事業を「CUC の中でも最も重要な国際プロジェクト」と位置づけ、平成 27 年に横浜の東京藝術大学大学院映像研究科で行われた共同制作には、ジャ・シュウチン学部長自らが参加し、更には自費でも参加する学生を派遣するなど積極的な取り組みを見せている。

中国伝媒大学は、中国の中でも映像及び放送分野に目覚ましい教育・研究実績があり、学部レベルからの 3DCG 教育の実績や、教育環境があることから、本事業において、デジタルツールを用いたアニメーション教育に大きな役割を果たすことが期待される。また、同大学は、中国国内の北京電影学院や、北京師範大学との共同授業及び、フランスのゴブラン高等専門学校、ドイツのケルン大学など、海外の大学との積極的な交流もあり、そのネットワークも将来的には本プロジェクトに生かせるものとする。

本事業の「国際共同演習」は、年度ごとに日本、韓国、中国と開催場所を移しながら実施する予定であり、また、「共同企画演習」と「共同制作演習」は、同一年度に別々の大学で実施する。中国伝媒大学においては、平成 30 年度の「共同制作演習」と「国際アニメーションフェスティバル」、平成 31 年度の「共同企画演習」を開催するスケジュールで調整を進めている。今回の提案にあたり、中国伝媒大学では、中国の教育省とも綿密に打ち合わせを行っていると聞いており、共同して積極的な活動が期待できる。

「共同企画演習」および「短期集中講座」においては、中国における特に優れた領域として、「3DCG 時代のキャラクターデザイン」をテーマとした特別講座の実施を具体的内容として予定している。

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、

①については、交流プログラムの内容や交流期間など、相手大学との交流実績が分かるように記入してください。

(本事業における交流プログラムとの関連性や現在の交流の有無は問いません。)

なお、交流実績が無い場合は、交流実績が無くとも本事業が実施できると判断した理由及び背景等を説明してください。

②については、相手大学との交流プログラム実施に向けた準備状況について具体的に分かりやすく記入してください。

また、交流を実施するまでの具体的なスケジュールについても記入してください。

相手大学名
(国名)

韓国芸術総合学校 (韓国)

① 交流実績 (交流の背景)

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

本学と韓国芸術総合学校は、国際共同制作を始め、シンポジウム、合同講評会等、活発な交流がある。

時期	本学の交流者	内容
2005年12月	—	大学間国際交流協定を締結
2011年12月	教員・学生	アニメーション学生共同制作プロジェクト実施 (場所：ソウル、派遣：岡本美津子教授、村上寛光助手)
2012年2月	教員・学生	日韓共同制作作品講評会のゲストとして教員を招聘 (パク・セヒョン教授、イ・ジョンミン教授、キム・ジュニアン講師、ラ・ジュンテク氏)
2012年12月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：ソウル、派遣：岡本美津子教授、村上寛光助手)
2013年10月	教員	韓国芸術総合学校 20周年記念シンポジウムにパネリストとして出席 (岡本美津子教授)
2013年12月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施、韓国学生へのティーチイン実施 (場所：ソウル、派遣：岡本美津子教授、山村浩二教授、布山タルト教授、村上寛光助手)
2014年8月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：横浜、招聘：パク・セヒョン教授、イ・ジョンミン教授、ジニー兼任教授)
2015年2月	教員・学生	「東京藝術大学産学官アニメーション国際シンポジウム 2015」にゲストとしてイ・ジョンミン教授を招聘
2015年7月	教員・学生	日中韓学生アニメーション共同制作実施 (場所：横浜、招聘：パク・セヒョン教授、イ・ジョンミン教授)
2015年12月	教員・学生	日中韓学生アニメーションフェスティバル 2015 (場所：金沢 21世紀美術館、参加教員：パク・セヒョン教授、ジュ・ワンス教授)
2016年3月	教員・学生	「アニメーション修了作品国際合同講評会」に講師として教員を招聘 (場所：横浜、参加教員：パク・セヒョン教授、ジュ・ワンス教授)

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化など) が十分なされているか。

大学院映像研究科アニメーション専攻においては、韓国芸術総合学校とのアニメーション作品の共同制作を平成 22 年より毎年継続して実施しており、平成 24 年以降は中国伝媒大学を加え、平成 27 年には第 6 回目を開催するなど、実績を重ねている。

国際共同制作以外にも、相互の大学でのシンポジウムや講評会出席、ティーチインを実施するなど、活発な教育活動での交流を行っている。また、共同制作に参加した韓国の学生が本学を訪問したり、韓国の学生の主催するイベントに日本から参加したりするなど、学生同士の交流も活発に行われている。

本事業のスタートにあたっては、韓国芸術総合学校のパク・セヒョン教授から、スマートフォンなどのニュー・メディアなども視野に入れた展開提案や、学生が英語でプレゼンテーションを行う「TED」スタイルの提案など、次世代の共同企画の充実に向けて、具体的な検討を開始している。

本事業の「国際共同演習」は、年度ごとに日本、韓国、中国と開催場所を移しながら実施する予定であり、また、「共同企画演習」と「共同制作演習」は、同一年度に別々の大学で実施する。韓国芸術総合学校においては、平成 29 年度の「共同制作演習」と「国際アニメーションフェスティバル」、平成 30 年度の「共同企画演習」、平成 32 年度の「共同制作演習」と「国際アニメーションフェスティバル」を開催するスケジュールで調整を進めている。

「共同企画演習」および「短期集中講座」においては、韓国における特に優れた領域として、「IT メディアへ向けたコンテンツ開発」をテーマとした特別講座の実施を具体的内容として予定している。

<p>本事業の実施計画 【①は1ページ以内、②、③は合わせて2ページ以内】</p> <p>事業全体の「①年度別実施計画」、「②補助期間終了後の事業展開」及び「③補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画」について、具体的に分かりやすく記入してください。</p>
<p>① 年度別実施計画</p> <p>【平成28年度（申請時の準備状況も記載）】</p> <p>4月～：本事業の実施計画に係る日中韓三大学による協議 7～8月：日中韓アニメーション国際共同制作の実施（本事業による刷新前の形式での実施） 10月～：平成29年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各大学間の協議 10月～：平成29年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各国産業界の調査／協議 11月～：本プロジェクトに係る専任教員、スタッフの雇用 1月：各国教員による合同カンファレンス 1月～：「国際共同演習」および「短期集中講座」の実施に向けた環境整備（設備類の調達） 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価</p> <p>【平成29年度】</p> <p>4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加 5月～6月：国際共同企画演習（東京藝術大学にて開催） 6月～7月：日中韓学生混成チームごとのWeb会議 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催） 10月～：平成30年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各大学間の協議 10月～：平成30年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各国産業界の調査／協議 1月：各国教員による合同カンファレンス 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価</p> <p>【平成30年度】</p> <p>4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加 5月～6月：国際共同企画演習（韓国芸術総合学校にて開催） 6月～7月：日中韓学生混成チームごとのWeb会議 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（中国伝媒大学にて開催） 10月～：平成31年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各大学間の協議 10月～：平成31年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各国産業界の調査／協議 1月：各国教員による合同カンファレンス 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価</p> <p>【平成31年度】</p> <p>4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加 5月～6月：国際共同企画演習（中国伝媒大学にて開催） 6月～7月：日中韓学生混成チームごとのWeb会議 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（東京藝術大学にて開催） 10月～：平成32年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各大学間の協議 10月～：平成32年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各国産業界の調査／協議 1月：各国教員による合同カンファレンス 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価</p> <p>【平成32年度】</p> <p>4月～：各国学生が他大学で短期集中講座に参加 5月～6月：国際共同企画演習（東京藝術大学にて開催） 6月～7月：日中韓学生混成チームごとのWeb会議 7月～8月：国際共同制作演習・アニメーションフェスティバル（韓国芸術総合学校にて開催） 10月～：平成33年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各大学間の協議 10月～：平成33年度の「国際共同演習」および「短期集中講座」に係る各国産業界の調査／協議 1月：各国教員による合同カンファレンス 2～3月：グローバル戦略推進委員会、グローバル戦略評価・検証委員会による自己評価・外部評価</p>

② 補助期間終了後の事業展開

本学は、平成26年10月に中長期的なビジョンとして「学長宣言2014」及び「大学改革・機能強化推進戦略」を公表しており、具体的なアクションプランとして、以下を掲げている。

- ・アジアの芸術系大学のフラグシップとして国際水準の人材育成プログラムや教育研究を実践
- ・我が国の芸術文化を一層振興し国際発信していくとともに、国際舞台で躍動する傑出した人材を育成
- ・国際的な芸術実践活動を展開し、活動成果を広く社会に還元
- ・海外一流芸術系大学との連携基盤をさらに発展させ、交換留学の拡充や国際共同カリキュラムの構築を実施

本事業は、全学におけるこの中長期ビジョンに基づくものであり、「第3期中期目標・計画」においても、本事業に係る交流プログラムの意義・方向性等の位置付けは明確であることから、補助期間終了後も交流プログラムを持続的・発展的に実施することは、本学の中・長期的な計画として折り込まれている。

また、様式6①・11④に記載の通り、映像研究科では以下をグローバル展開戦略として推進している。

- ・北米との連携強化：南カリフォルニア大学（USC）をコアユニットとした最先端映像教育
- ・ヨーロッパ映像学校との連携（フランス国立高等装飾芸術学校、ゴブラン等）
- ・ASEAN への教育派遣（アニメーション専攻の教員や、産業界の専門家等を派遣し、人材育成に協力）

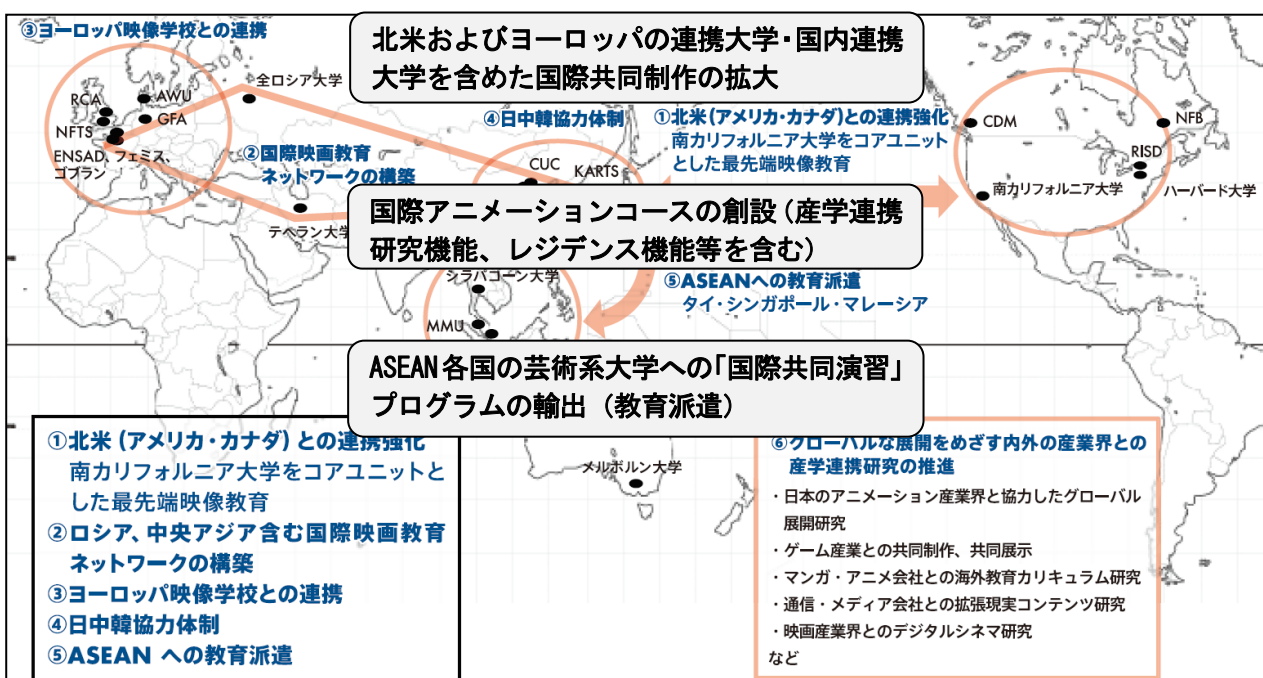
加えて、様式1③および様式4①に記載の通り、本学は以下の通り国内ネットワークを有している

- ・ICAF（インターカレッジアニメーションフェスティバル）
- ・国立5芸術大学連携ネットワーク（教職員・学生交流、芸術教育に係る知見の共有）
- ・芸術系大学コンソーシアム（芸術系大学全体のプレゼンス向上、教職員・学生の交流促進）

以上を踏まえ、具体的には以下の事項を、補助期間終了後の本事業の展開として計画している。

- 北米およびヨーロッパの連携大学・国内連携大学を含めた国際共同制作の拡大
- 国際アニメーションコースの創設（産学連携研究機能、レジデンス機能等を含む）
- ASEAN 各国の芸術系大学への「国際共同演習」プログラムの輸出（教育派遣）

これらの取組を推進する為には、産学連携ネットワークの拡大・活用が極めて重要であることから、メディア関連企業や商業アニメプロダクション等との協働関係を、補助事業期間を通してさらに強固なものとし、将来にわたり持続的な「国際共同・産学連携アニメーション人材育成プログラム」を構築する。



図：東京藝術大学映像研究科のグローバル展開戦略に基づく本事業の将来展望

③補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

本事業は、本学の国際化・機能強化戦略の主要事項に位置付けられるものであり、前述の通り本学・映像研究科における国際教育の中核を成すプログラムである為、スーパーグローバル大学創成支援事業等により構築される体制・システム等および将来的な国際貢献・国際共同研究等の諸活動とも有機的に連動させつつ、継続的・発展的に運営していく必要がある。安定的な資金・財政基盤の確保に係る方策として、次の観点に基づき、事業費の節減およびマッチングファンドを図る。

■人件費の節減

節減項目 (金額)	節減方法
サポートスタッフ (420 万円/年)	交流プログラムに伴う学生の派遣・学生の受入に係る各種手続きおよび包括的な支援を担当する役職だが、 <u>業務配分の最適化および効率化等により、平成 33 年度以降は従来の体制に吸収する形で対応する。</u>

■その他費用の節減

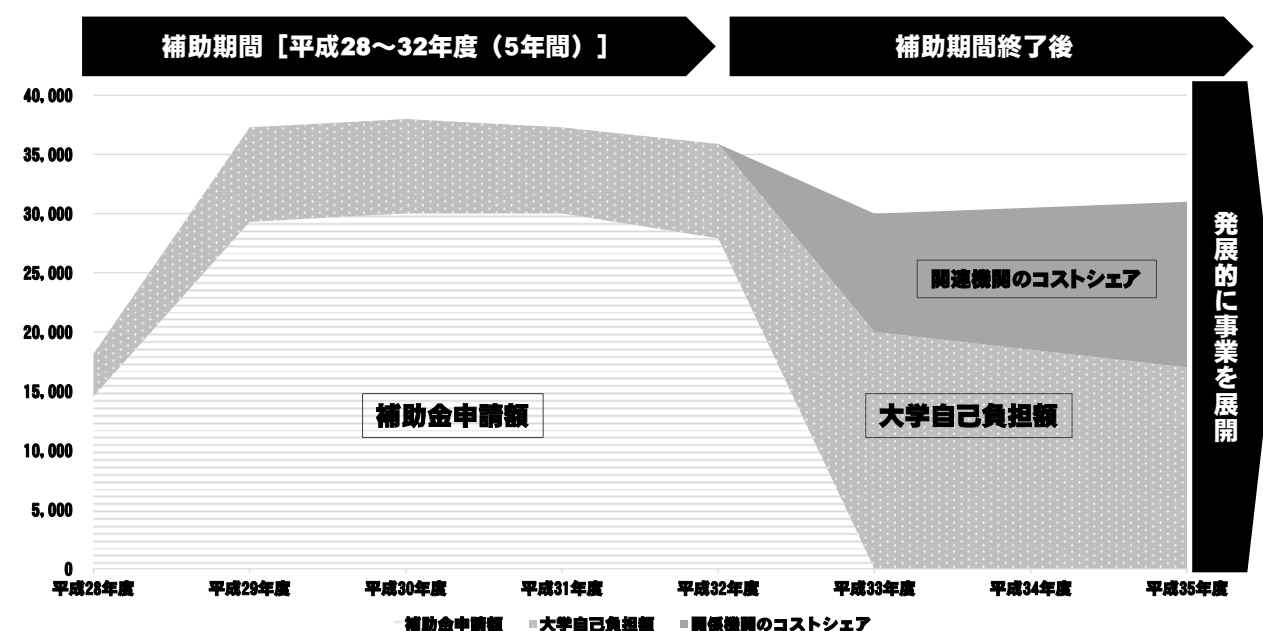
節減項目 (金額)	節減方法
英訳外注費、調査および協議に係る旅費 等 (170 万円/年)	補助期間を通じて必要書類の英訳等を概ね完了させつつ、学内の業務フローによる英訳作業の効率化を図る。また、 <u>skype による打ち合わせ等の精度・頻度を向上させることで、事前協議等にかかる旅費を節減する。</u>

■マッチングファンド

補助期間中の成果発信によって日中韓のメディア産業・アニメーション産業等からの支援拡大を図るとともに、民間企業からのコマーシャル制作等の受託事業として国際共同演習を実施する。また、芸術文化・映像メディア産業等に関連する各国省庁・団体等にも継続的な支援を要請し、財政基盤の安定化を図る。

■本事業における事業費の推移 (単位：千円)

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	H34 年度	H35 年度
補助金申請額	14,560	29,310	30,020	30,020	27,910	0	0	0
大学自己負担額	3,600	7,980	7,980	7,270	7,980	20,000	18,500	17,000
関連機関負担額	0	0	0	0	0	10,000	12,000	14,000
合計	18,160	37,290	38,000	37,290	35,890	30,000	30,500	31,000



図：事業費の推移・補助期間後の資金計画

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

○ 資金計画が、経費や規模の面で合理的であるか。

(単位:千円)

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための使途に限定されます。(平成28年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。)

記載例 : 教材印刷費 ○○○千円
 ○○部 × @○○○円
 : 謝金 ○○○千円
 ○○人 × @○○○円

＜平成28年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
[物品費]					
①設備備品費					
	・ 国際共同演習実施関連機材一式 (@300千円×10)	3,000	0	3,000	様式2①② P8,9
	・ 短期集中講座開設関連機材一式 (@500千円×3)	1,500	0	1,500	様式2①② P8,9
②消耗品費					
	・ 国際共同演習用ソフトウェア一式 (@50千円×15)	750	0	750	様式2①② P8,9
	・ 事務消耗品一式	100	0	100	様式4② P13
[人件費・謝金]					
①人件費					
	・ Co-workカリキュラム専任教員(@800千円×5カ月)	4,000	0	4,000	様式2①② P8,9
	・ サポートスタッフ (@350千円×5カ月)	1,750	0	1,750	様式3①② P10
②謝金					
	・ 国際共同プログラム構築指導 (@50千円×6回)	300	0	300	様式2①② P8,9
	・ 語学特別講座外部講師 (@100千円×6回)	600	0	600	様式2①② P8,9
[旅費]					
	・ 調査／協議旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	0	1,800	1,800	様式3③ P11
	・ 合同会議に係る教員招聘旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	0	1,800	1,800	様式3③ P11
[その他]					
①外注費					
	・ Co-workカリキュラム構築関連資料英訳	1,500	0	1,500	様式3①② P10
	・ Co-workカリキュラム特設Webサイト作成	1,000	0	1,000	様式4④ P13
②印刷製本費					
		0	0	0	
③会議費					
		0	0	0	
④通信運搬費					
	・ 海外渡航に伴う通信機器レンタル (@15千円×4)	60	0	60	様式3③ P11
⑤光熱水料					
		0	0	0	
⑥その他(諸経費)					
		0	0	0	
		0	0	0	
		0	0	0	
		0	0	0	
		0	0	0	
平成28年度	合計	14,560	3,600	18,160	

(前ページの続き)

＜平成29年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	1,900	0	1,900	
	①設備備品費	1,400	0	1,400	
	・国際共同演習実施関連機材一式 (@300千円×3)	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座開設関連機材一式 (@500千円×1)	500		500	様式2①② P8,9
				0	
	②消耗品費	500	0	500	
	・国際共同演習用消耗品一式	300		300	様式2①② P8,9
	・事務消耗品一式	200		200	様式4② P13
				0	
	[人件費・謝金]	17,000	2,270	19,270	
	①人件費	14,050	0	14,050	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@800千円×12カ月)	9,600		9,600	様式2①② P8,9
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)	4,200		4,200	様式3①② P10
	・外国人留学生支援チューター(@50千円×5名)	250		250	様式3① P10
	②謝金	2,950	2,270	5,220	
	・短期集中講座外部講師(@100千円×4名)	400		400	様式2①② P8,9
	・語学特別講座外部講師(@100千円×10回)	1,000		1,000	様式2①② P8,9
	・共同企画演習運営スタッフ謝金(@15千円×15日×6名)	1,350		1,350	様式2①② P8,9
	・共同企画演習外部講師招聘(@100千円×2名)	200		200	様式2①② P8,9
	・共同制作演習運営スタッフ謝金(@15千円×15日×6名)		1,350	1,350	様式2①② P8,9
	・共同制作演習技術スタッフ謝金(@20千円×15日×2名)		600	600	様式2①② P8,9
	・共同制作演習外部講師招聘(@100千円×2名)		200	200	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト謝金(@30千円×4名)		120	120	様式2①② P8,9
	[旅費]	5,100	1,500	6,600	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・合同会議に係る教員招聘旅費(@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・共同企画演習に係る連携大学教員招聘(@250千円×3名×2カ国)	1,500		1,500	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る教員派遣旅費(@300千円×3名)		900	900	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト招聘旅費(@150千円×4名)		600	600	様式2①② P8,9
				0	
				0	
	[その他]	5,310	4,210	9,520	
	①外注費	2,300	800	3,100	
	・アニメーション作品Web配信対応処理一式	500		500	様式4④ P13
	・Co-workカリキュラム関連資料英訳	1,000		1,000	様式3①② P10
	・国際共同演習等関連機材メンテナンス経費	800		800	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係る同時通訳		500	500	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るパンフレット制作		300	300	様式2①② P8,9
	②印刷製本費	0	1,000	1,000	
	・成果報告書(@1千円×1000部)		1,000	1,000	様式4④ P13
				0	
				0	
	③会議費	0	300	300	
	・アニメフェスに係るレセプション(@50千円×60名)		300	300	様式3③ P11
				0	
	④通信運搬費	60	60	120	
	・海外渡航に伴う通信機器レンタル(@15千円×8)	60	60	120	様式3③ P11
				0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
				0	
	⑥その他(諸経費)	2,950	2,050	5,000	
	・短期集中講座実施に係る会場借料(@20千円×15日×3回)	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座に係る学生派遣(@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る学生派遣(@250千円×5人)		1,250	1,250	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る会場借料(@40千円×20日)	800		800	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る会場借料(@40千円×20日)		800	800	様式2①② P8,9
平成29年度	合計	29,310	7,980	37,290	

(前ページの続き)

＜平成30年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	1,900	0	1,900	
	①設備備品費	1,400	0	1,400	
	・国際共同演習実施関連機材一式 (@300千円×3)	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座開設関連機材一式 (@500千円×1)	500		500	様式2①② P8,9
				0	
	②消耗品費	500	0	500	
	・国際共同演習用消耗品一式	300		300	様式2①② P8,9
	・事務消耗品一式	200		200	様式4② P13
				0	
	[人件費・謝金]	17,000	2,270	19,270	
	①人件費	14,050	0	14,050	
	・Co-workカリキュラム専任教員 (@800千円×12カ月)	9,600		9,600	様式2①② P8,9
	・サポートスタッフ (@350千円×12カ月)	4,200		4,200	様式3①② P10
	・外国人留学生支援チューター (@50千円×5名)	250		250	様式3① P10
	②謝金	2,950	2,270	5,220	
	・短期集中講座外部講師 (@100千円×4名)	400		400	様式2①② P8,9
	・語学特別講座外部講師 (@100千円×10回)	1,000		1,000	様式2①② P8,9
	・共同企画演習運営スタッフ謝金 (@15千円×15日×6名)	1,350		1,350	様式2①② P8,9
	・共同企画演習外部講師招聘 (@100千円×2名)	200		200	様式2①② P8,9
	・共同制作演習運営スタッフ謝金 (@15千円×15日×6名)		1,350	1,350	様式2①② P8,9
	・共同制作演習技術スタッフ謝金 (@20千円×15日×2名)		600	600	様式2①② P8,9
	・共同制作演習外部講師招聘 (@100千円×2名)		200	200	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト謝金 (@30千円×4名)		120	120	様式2①② P8,9
	[旅費]	4,500	1,500	6,000	
	・調査/協議旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・合同会議に係る教員招聘旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・共同企画演習に係る教員派遣旅費 (@300千円×3名)	900		900	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る教員派遣旅費 (@300千円×3名)		900	900	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト招聘旅費 (@150千円×4名)		600	600	様式2①② P8,9
				0	
	[その他]	6,620	4,210	10,830	
	①外注費	2,300	800	3,100	
	・アニメーション作品Web配信対応処理一式	500		500	様式4④ P13
	・Co-workカリキュラム関連資料英訳	1,000		1,000	様式3①② P10
	・国際共同演習等関連機材メンテナンス経費	800		800	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係る同時通訳		500	500	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るパンフレット制作		300	300	様式2①② P8,9
	②印刷製本費	0	1,000	1,000	
	・成果報告書 (@1千円×1000部)		1,000	1,000	様式4④ P13
				0	
	③会議費	0	300	300	
	・アニメフェスに係るレセプション (@50千円×60名)		300	300	様式3③ P11
				0	
	④通信運搬費	120	60	180	
	・海外渡航に伴う通信機器レンタル (@15千円×12)	120	60	180	様式3③ P11
				0	
				0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
				0	
	⑥その他(諸経費)	4,200	2,050	6,250	
	・短期集中講座実施に係る会場借料	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座に係る学生派遣 (@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る学生派遣 (@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る学生派遣 (@250千円×5人)		1,250	1,250	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る会場借料 (@40千円×20日)	800		800	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る会場借料 (@40千円×20日)		800	800	様式2①② P8,9
平成30年度	合計	30,020	7,980	38,000	

(前ページの続き)

＜平成31年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	1,900	0	1,900	
	①設備備品費	1,400	0	1,400	
	・国際共同演習実施関連機材一式 (@300千円×3)	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座開設関連機材一式 (@500千円×1)	500		500	様式2①② P8,9
				0	
	②消耗品費	500	0	500	
	・国際共同演習用消耗品一式	300		300	様式2①② P8,9
	・事務消耗品一式	200		200	様式4② P13
				0	
	[人件費・謝金]	17,000	2,270	19,270	
	①人件費	14,050	0	14,050	
	・Co-workカリキュラム専任教員 (@800千円×12カ月)	9,600		9,600	様式2①② P8,9
	・サポートスタッフ (@350千円×12カ月)	4,200		4,200	様式3①② P10
	・外国人留学生支援チューター (@50千円×5名)	250		250	様式3① P10
	②謝金	2,950	2,270	5,220	
	・短期集中講座外部講師 (@100千円×4名)	400		400	様式2①② P8,9
	・語学特別講座外部講師 (@100千円×10回)	1,000		1,000	様式2①② P8,9
	・共同企画演習運営スタッフ謝金 (@15千円×15日×6名)	1,350		1,350	様式2①② P8,9
	・共同企画演習外部講師招聘 (@100千円×2名)	200		200	様式2①② P8,9
	・共同制作演習運営スタッフ謝金 (@15千円×15日×6名)		1,350	1,350	様式2①② P8,9
	・共同制作演習技術スタッフ謝金 (@20千円×15日×2名)		600	600	様式2①② P8,9
	・共同制作演習外部講師招聘 (@100千円×2名)		200	200	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト謝金 (@30千円×4名)		120	120	様式2①② P8,9
	[旅費]	4,500	2,100	6,600	
	・調査/協議旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・合同会議に係る教員招聘旅費 (@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・共同企画演習に係る教員派遣旅費 (@300千円×3名)	900		900	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る連携大学教員招聘 (@250千円×3名×2カ国)		1,500	1,500	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト招聘旅費 (@150千円×4名)		600	600	様式2①② P8,9
				0	
				0	
	[その他]	6,620	2,900	9,520	
	①外注費	2,300	800	3,100	
	・アニメーション作品Web配信対応処理一式	500		500	様式4④ P13
	・Co-workカリキュラム関連資料英訳	1,000		1,000	様式3①② P10
	・アニメフェスに係る同時通訳		500	500	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るパンフレット制作		300	300	様式2①② P8,9
	・国際共同演習等関連機材メンテナンス経費	800		800	様式2①② P8,9
	②印刷製本費	0	1,000	1,000	
	・成果報告書 (@1千円×1000部)		1,000	1,000	様式4④ P13
				0	
				0	
	③会議費	0	300	300	
	・アニメフェスに係るレセプション (@50千円×60名)		300	300	様式3③ P11
				0	
	④通信運搬費	120	0	120	
	・海外渡航に伴う通信機器レンタル (@15千円×8)	120		120	様式3③ P11
				0	
				0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
				0	
	⑥その他(諸経費)	4,200	800	5,000	
	・短期集中講座実施に係る会場借料	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座に係る学生派遣 (@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る学生派遣 (@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る会場借料 (@40千円×20日)		800	800	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る会場借料 (@40千円×20日)	800		800	様式2①② P8,9
平成31年度	合計	30,020	7,270	37,290	

(前ページの続き)

＜平成32年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	備考
	[物品費]	500	0	500	
	①設備備品費	0	0	0	
				0	
				0	
	②消耗品費	500	0	500	
	・国際共同演習用消耗品一式	300		300	様式2①② P8,9
	・事務消耗品一式	200		200	様式4② P13
				0	
	[人件費・謝金]	17,000	2,270	19,270	
	①人件費	14,050	0	14,050	
	・Co-workカリキュラム専任教員(@800千円×12カ月)	9,600		9,600	様式2①② P8,9
	・サポートスタッフ(@350千円×12カ月)	4,200		4,200	様式3①② P10
	・外国人留学生支援チューター(@50千円×5名)	250		250	様式3① P10
	②謝金	2,950	2,270	5,220	
	・短期集中講座外部講師(@100千円×4名)	400		400	様式2①② P8,9
	・語学特別講座外部講師(@100千円×10回)	1,000		1,000	様式2①② P8,9
	・共同企画演習運営スタッフ謝金(@15千円×15日×6名)	1,350		1,350	様式2①② P8,9
	・共同企画演習外部講師招聘(@100千円×2名)	200		200	様式2①② P8,9
	・共同制作演習運営スタッフ謝金(@15千円×15日×6名)		1,350	1,350	様式2①② P8,9
	・共同制作演習技術スタッフ謝金(@20千円×15日×2名)		600	600	様式2①② P8,9
	・共同制作演習外部講師招聘(@100千円×2名)		200	200	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト謝金(@30千円×4名)		120	120	様式2①② P8,9
	[旅費]	5,100	1,500	6,600	
	・調査/協議旅費(@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・合同会議に係る教員招聘旅費(@150千円×3名×2回×2カ国)	1,800		1,800	様式3③ P11
	・共同企画演習に係る連携大学教員招聘(@250千円×3名×2カ国)	1,500		1,500	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る教員派遣旅費(@300千円×3名)		900	900	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るゲスト招聘旅費(@150千円×4名)		600	600	様式2①② P8,9
				0	
				0	
	[その他]	5,310	4,210	9,520	
	①外注費	2,300	800	3,100	
	・アニメーション作品Web配信対応処理一式	500		500	様式4④ P13
	・Co-workカリキュラム関連資料英訳	1,000		1,000	様式3①② P10
	・国際共同演習等関連機材メンテナンス経費	800		800	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係る同時通訳		500	500	様式2①② P8,9
	・アニメフェスに係るパンフレット制作		300	300	様式2①② P8,9
	②印刷製本費	0	1,000	1,000	
	・成果報告書(@1千円×1000部)		1,000	1,000	様式4④ P13
				0	
				0	
	③会議費	0	300	300	
	・アニメフェスに係るレセプション(@50千円×60名)		300	300	様式3③ P11
				0	
	④通信運搬費	60	60	120	
	・海外渡航に伴う通信機器レンタル(@15千円×8)	60	60	120	様式3③ P11
				0	
	⑤光熱水料	0	0	0	
				0	
	⑥その他(諸経費)	2,950	2,050	5,000	
	・短期集中講座実施に係る会場借料(@20千円×15日×3回)	900		900	様式2①② P8,9
	・短期集中講座に係る学生派遣(@250千円×5人)	1,250		1,250	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る学生派遣(@250千円×5人)		1,250	1,250	様式2①② P8,9
	・共同企画演習に係る会場借料(@40千円×20日)	800		800	様式2①② P8,9
	・共同制作演習に係る会場借料(@40千円×20日)		800	800	様式2①② P8,9
平成32年度	合計	27,910	7,980	35,890	

交流プログラムを実施する相手大学の概要【相手大学数に応じたページ数(枠内に記入)】

大 学 名 称	中国伝媒大学 Communication University of China		国 名	中国		
設 置 形 態	国立	設 置 年	1954年			
設 置 者 (学 長 等)	蘇志武 ※既に退任しているが、新しい学長は未定とのこと。					
学 部 等 の 構 成	電視(テレビ)・新聞学院、外語学院、広告学院、経済・管理学院、政治・法律学院、戯劇影視(演劇映画)学院、音楽・録音芸術学院、動画・数字(デジタル)芸術学院、播音主持(アナウンサー)芸術学院、文学院、情報(情報)工程学院、理学院、計算機学院、対外漢語(中国語)教育学院、MBA学院、思想政治理論課教研部、高等職業技術学院、国際学院、芸術研究院、体育部、培訓(養成訓練)学院、鳳凰(フェニックス)学院					
学 生 数	総 数	14,000人	学部生数	9,000人	大学院生数	4,000人
受け入れている留学生数	79人	日本からの留学生数	0人			
海外への派遣学生数	601人	日本への派遣学生数	1人			
Webサイト(URL)	http://www.cuc.edu.cn/					

大 学 名 称	韓国芸術総合学校 Korea National University of Arts		国 名	韓国		
設 置 形 態	国立	設 置 年	1993年			
設 置 者 (学 長 等)	イ・ガンスク					
学 部 等 の 構 成	音楽院、演劇院、映像院、舞踊院、美術院、伝統芸術院、協同課程					
学 生 数	総 数	4,666人	学部生数	3,108人	大学院生数	1,653人
受け入れている留学生数	158人	日本からの留学生数	6人			
海外への派遣学生数	287人	日本への派遣学生数	19人			
Webサイト(URL)	http://www.karts.ac.kr/					

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。

大学等名	東京藝術大学
------	--------

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数(平成27年5月1日現在)及び各出身国(地域)別の平成27年度の留学生受入人数

※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限ります。

※平成27年度の留学生受入人数は、平成27年4月1日～平成28年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入してください。

※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の平成27年5月1日現在の在籍者数を記入してください。

順位	出身国(地域)	受入総数	平成27年度受入人数
1	中国	63	43
2	韓国	35	12
3	台湾	15	9
4	イギリス	6	2
5	ドイツ	6	7
6	アメリカ	5	1
7	フランス	3	7
8	ベトナム	3	2
9	タイ	2	2
10	オーストラリア	2	2
その他 (上記10カ国以外)	スペイン、セルビア、ブラジル、パン グラデシュ、イラン、インド 他	20	21
留学生の受入人数の合計		160	108
全学生数		3394	
留学生比率		4.7%	

②平成27年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、平成27年度中(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。なお、平成27年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。

順位	派遣先大学の所在国(地域)	派遣先大学名	平成27年度派遣人数
1	フランス	パリ国立高等美術学校	13
2	イギリス	ロンドン芸術大学	8
3	イギリス	英国建築協会付属建築学校	7
4	フランス	フランス国立映画学校	7
5	ベトナム	ベトナム美術大学	6
6	ロシア	モスクワ音楽院	6
7	インドネシア	インドネシア国立芸術大学	6
8	ドイツ	ワイマール・パウハウス大学	5
9	台湾	国立台南大学	5
10	アメリカ	シカゴ美術館附属美術大学	4
その他 (上記10校以外)	(主な国名) 中国 他 計 18 カ国	(主な大学名) 中央音楽学院 他 計 52 校	93
派遣先大学合計校数			62
派遣人数の合計			160

(大学名:東京藝術大学)(タイプ:A-②)

大学等名	東京藝術大学						
③大学等全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成27年5月1日現在)							
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。							
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
478	9	6	2	8	24	49	10.3%
うち専任教員 (本務者)数	9	6	2	8	0	25	

大学等名	東京藝術大学
-------------	--------

④「様式6①取組の実績」で記入した実績を示すデータや資料等ととりまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】

**世界23カ国・地域の63大学・機関との国際交流協定に基づく連携
大学組織以外の芸術団体・アーティスト等との広範な国際ネットワーク**



■国際交流協定校一覧
 日 : http://global.geidai.ac.jp/current_status/partners/
 英 : http://global.geidai.ac.jp/e/current_status/partners/

■国際交流実績一覧
http://www.geidai.ac.jp/office/kenkyo/kokusaikoryu/koryuji/sseki_index.html

■国際交流プロジェクトのレポート
 日 : http://global.geidai.ac.jp/reports_index/
 英 : http://global.geidai.ac.jp/e/reports_index/

**グローバルアート国際共同カリキュラム（ジョイントディグリー）構築に向けた連携協定
国際共同授業科目として実施した共同調査・共同制作・成果発表**



■左から順に、フランスにおけるパリ国立高等美術学校との共同ワークショップ、新潟県越後妻有トリエンナーレにおける成果発表、イギリスにおけるロンドン芸術大学との共同授業、香川県栗林公園における成果発表
 日 : <http://global.geidai.ac.jp/reports/017/>、<http://global.geidai.ac.jp/reports/032/>
 英 : <http://global.geidai.ac.jp/e/reports/017/>、<http://global.geidai.ac.jp/e/reports/032/>

■ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学との四大学合同連携協定調印式
 日 : <http://www.geidai.ac.jp/news/2015030627694.html> 英 : <http://www.geidai.ac.jp/english/news/201503097688.html>

世界一線級の演奏家を招聘

■左：ベルリンフィル首席トロンボーン奏者によるレッスン、右：パリ国立高等音楽院からの招聘教員
 日 : <http://global.geidai.ac.jp/2015/04/news001/>
 英 : <http://global.geidai.ac.jp/e/2015/04/news001/>

中東地域との交流プログラム

■左：ベツアルエル美術デザインアカデミー（イスラエル）、右：ミマールシナン美術大学（トルコ）との学生トークセッション
 日 : <http://global.geidai.ac.jp/reports/052/>
 英 : <http://global.geidai.ac.jp/e/reports/052/>

芸術文化外交の推進による国際貢献・教育研究プログラムへの展開



■左から順に、ミャンマー・バガン遺跡における壁画複製の為の調査、イタリア共和国マッテオ・レンツィ首相による特別講演、フランス共和国前首相（現・外相）ジャン＝マルク・エロー氏による特別講演、オランダ王国マルク・ルッテ首相との会談
 日 : <http://www.geidai.ac.jp/news/2014111224298.html>、<http://global.geidai.ac.jp/reports/026/>、<http://global.geidai.ac.jp/reports/034/>、<http://global.geidai.ac.jp/reports/036/>、<http://global.geidai.ac.jp/reports/039/> 英 : <http://global.geidai.ac.jp/e/reports/026/>、<http://global.geidai.ac.jp/e/reports/034/>、<http://global.geidai.ac.jp/e/reports/036/>、<http://global.geidai.ac.jp/e/reports/039/>

大学等名 東京藝術大学

④「様式6①取組の実績」で記入した実績を示すデータや資料等ととりまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】

映像研究科におけるグローバル展開戦略



■左から順に、①南カリフォルニア大学からの招聘教授による映像制作におけるバーチャルリアリティに関するワークショップ、②同大学からの招聘教授によるビジュアル・ミュージックに係る講義、③テヘラン大学からの招聘教授による映画脚本に関する講義、④カナダ、センター・フォー・デジタルメディアからの招聘教授による「ゲーム、CG、アニメーション分野における研究指導



■左から順に、⑤日中韓アニメーション共同制作2015、⑥同左、⑦日仏韓映画共同制作2015、⑧同左の上映会



■左から順に、⑨マルチメディア大学(マレーシア)における映画撮影照明ワークショップ、⑩シラバコーン大学(タイ)におけるアニメーションワークショップ、⑪ラサール大学(シンガポール)におけるアニメーション・映画マスタークラス、⑫国際アニメーションシンポジウム ※上記①～⑫は「平成27年度東京藝術大学映像研究科 Global Networking Project 2015報告書」より抜粋

国際化に対応した教育研究組織・海外実践型研修授業

■教員総覧: <http://tsdb.geidai.ac.jp/search/index.html>
 ■教員受賞歴: <http://www.geidai.ac.jp/information/prize/teacher>
 ※近年の実績: カヌ国際映画祭監督賞、芥川作曲賞、芸術選奨文部科学大臣賞美術部門 など多数
 ■学生受賞歴: <http://www.geidai.ac.jp/information/prize/student>
 ※近年の実績: 国際パッサコンクール(ヴァイオリン部門)第1位、ソウル国際漫ガ・アニメーション(学生コンペティション部門)グランプリ など多数
 ■海外経験豊富な教員により企画・運営される海外実践型研修授業 (Arts Study Abroad Program)
 ・フランス国立映画学校での映画制作、配給についてのワークショップ
 ・ベトナム美術大学との漆芸交流授業
 ・インドネシア(バリ島)における儀礼/祭礼の撮影 など多数実施
 日・英: http://global.geidai.ac.jp/report_category/rpt_students_report/
 ■年俸制・テニュアトラック制等による国際水準の教員採用
 ・東京藝術大学卓越教員制度: http://www.geidai.ac.jp/kisoku_koukai/pdf/p20151126_485.pdf
 ・東京藝術大学クロス・アポイントメント制度: http://www.geidai.ac.jp/kisoku_koukai/pdf/p20150401_491.pdf
 ・東京藝術大学テニュアトラック制度: http://www.geidai.ac.jp/kisoku_koukai/pdf/p20160128_502.pdf

国際化に対応した事務体制、厳格な成績管理・単位の実質化等

■事務組織: <http://www.geidai.ac.jp/outline/organization/chart>
 ■グローバルサポートセンター: http://www.geidai.ac.jp/department/center/global_support_center
 ■学生サポート一覧: [留学希望者向け] <http://global.geidai.ac.jp/guide/> [留学生向け] <http://global.geidai.ac.jp/guide/g1/>
 ■事務職員の語学研修(右図): <http://global.geidai.ac.jp/reports/033/>
 ■チューター制度(留学生支援、留学支援、日本語授業支援)
http://www.geidai.ac.jp/kisoku_koukai/pdf/p20150716_495.pdf
 ■総合キャリアポートフォリオシステム
<http://www.geidai.ac.jp/life/cp/campusplan>
 ■カリキュラム: <http://www.geidai.ac.jp/life/courses/curriculum>
 ■ナンバリング、シラバス: <http://www.geidai.ac.jp/life/courses/syllabus>

語学力 × 大学職員力 × 異文化理解力

大学等名	東京藝術大学
⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】	
<p>※当該申請大学等において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている大学改革推進等補助金、国際化拠点整備事業費補助金、研究拠点形成費等補助金等又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(大学教育再生加速プログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。</p>	
<p>また、独立行政法人日本学生支援機構平成28年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。</p>	
<p>◆スーパーグローバル大学創成支援事業</p>	
<p>採択事業名：「“藝大力”創造イニシアティブ オンリーワンのグローバル戦略」</p>	
<p>事業概要：我が国唯一の国立総合芸術大学として、アジアでは確固たる地位を築いている藝大が、世界的にも稀少な、美術、音楽及び映像3分野を有する総合芸術大学の強み・特色を活かした戦略を総力を結集して展開し、海外一線級アーティストユニット誘致等によりグローバル人材育成機能強化を図るとともに、ブランディング戦略を推進して国際プレゼンスを明確化することで世界ブランド“藝大”への飛躍を目指す。</p>	
<p>同事業は大学組織の国際化を推進する為の体制整備、欧米を中心とした世界有数の芸術系大学とのネットワーク基盤の構築および同基盤に基づく海外一線級アーティストユニットの誘致等を中核としたものであり、日中韓による「キャンパス・アジア」としてアニメーション人材育成の為の共同カリキュラムの構築を目指す本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない(同事業において構築している体制・システム等については、当然本申請事業でも活用されることになるが、当該体制・システムに係る経費については、本申請においては一切計上していない)。</p>	
<p>◆平成27年度大学の世界展開力強化事業(中南米等との大学間交流形成支援)</p>	
<p>採択事業名：「Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～」</p>	
<p>事業概要：東洋と西洋の芸術文化が交錯・融合する「中東地域」をターゲットに、魅力的な芸術文化リソースを有する中東3大学と連携し、学生の相互交流拡充や国際共同プロジェクト実践等を行うことにより、世界で活躍できる芸術家の育成をグローバルなフィールドで推進し、国際交流を通じた「芸術文化外交」を実現する。</p>	
<p>同事業における交流プログラムは中東(トルコ、イスラエル)の3大学を対象としたものであり、本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない。</p>	
<p>◆(独)日本学生支援機構 平成28年度海外留学支援制度(協定派遣)</p>	
<p>採択プログラム①：美術の創作研究における日本・欧州双方向(重点地区)学生交流プログラム</p>	
<p>採択プログラム②：東京藝術大学美術学部交流協定校派遣プログラム</p>	
<p>①はイギリス、フランス、ドイツ、②はイギリス、イタリア、オーストリア、フィンランドにある本学の国際交流協定校との学生交流に係るプログラムであるため、本申請に係る交流プログラムとは明確に異なり、経費の重複は一切ない。</p>	